

資料紹介

「昭和十四年 参本情報記録「ノモンハン」事件関係綴」

—九月・現地参謀ト連絡—

濱名 翔平

「昭和十四年 参本情報記録「ノモンハン」事件関係綴」(以下「情報記録」)は、当館所蔵の史料調査会資料に含まれる資料である。筆者は本資料が日本陸軍の対ソ情報活動を見るうえで重要と考え、『吳市海事歴史科学館研究紀要』第十一・十二号に翻刻を掲載した。本稿では、資料の最終部分にあたる「九月」と「現地参謀ト連絡」を掲載する。

本稿に掲載する「九月」は、ノモンハン事件が停戦に至る時期である。八月末にソ連軍の攻勢を受け、関東軍の第二十三師団が壊滅、陸軍中央は事件の收拾を外交交渉にゆだね、九月十五日に日ソ間で停戦協定が成立した。「情報記録」は、停戦協定成立の翌日(九月十六日)の第八十五号で終了している。

「現地参謀ト連絡」は、参謀本部の派遣参謀や関東軍第二課の参謀が参謀本部第二部第五課に電話連絡した情報が記されており、六月二十五日から七月二十七日までのものが収録されている。「詳細電報ニ依ル」と記されており、電話連絡と並行して電報による報告が行われていたことがうかがえる。電話・電報による報告を中心に、参謀本部第二部第五課が諸情報を編集したものが「情報記録」と考えられる。情報活動の中枢にあたる部署が作成・伝達した「情報記録」は、ノモンハン事件時の対

ソ情報活動の実態を解明するうえで、重要といえるだろう。

(当館学芸員)

●「ノモンハン」附近国境事件情報記録 第七十三号

昭和十四年九月一日

第五課

一、事件地方面ノ戦況

1 地上部隊ニ関シテハ其後新報ヲ得ス

2 飛行部隊(八月三十日)

イ、八月三十日我カ飛行隊ハ四次ニ亘リ出動シ小松原部隊前面ノ

敵戦車ヲ索メテ爆撃セリ

ロ、我カ戦闘隊ノ一部ハ三十日十三時頃「ノロ」台上空ニ於テ敵

戦闘機四—五十機ト、又他ノ一部ハ十三時三十分頃同地上空

ニ於テ敵戦闘機約三十機ト夫々交戦シ撃墜確實ナルモノ二

十四機、不確實ナルモノ十機ナリ

ハ、本日ノ戦闘ニ於ケル我ノ損害

未タ帰還セサルモノ 戦闘機 一

自爆機 同一

不時着 同一

二、事件地方面ノ敵情

1 八月三十日入手ノ情况(確度丙)

イ、戦場附近ニ於ケル蘇連軍参戦部隊ハ第三六、第二〇(駐第五〇?)

自動車化師団並ニ第三十二、第十九、第十一、第五機械化旅団

ニシテ蒙古騎兵第三師団及第六師団ハ予備隊ナリ

ロ・蘇連空軍ノ損耗ハ完全ニ補充セラレタルモ飛行部隊ノ志気沮喪甚シク国内ニ於テハ一般ニ国民ノ外蒙古戦線ニ行クヲ好マサルヲ以テ派遣先ヲ明示セスシテ操縦士希望者ヲ募集シツツアリ
2 八月三十日入手ノ情況（確度乙）

八月二十八日「ジャウオロニコフ」ヨリ「チタ」ヘノ通話ニヨレハ在「バイントメン」第二軍飛行隊ハ目下快速偵察機ニ依ル海拉爾空襲ヲ準備中ニシテ其ノ爆撃目標ハ兵營及鉄道ナリ、而シテ右脅威ハ外蒙戦線ノ拡大セル後ニ於テ行ハルル筈ナリト

3 八月二十八日蒙蘇軍政治部發莫斯科宛報告要旨（確度乙）

イ・「ハルハ」紛争地域ニ於ケル蒙蘇軍ハ日本軍ノ攻撃ニ対シ頑強ナル抵抗ヲ為スト共ニ敵ノ両翼ヲ包圍攻撃中ニシテ友軍砲兵ノ射撃ハ極メテ正確ナリ

ロ・「シテルン」ハ戦線ノ拡大ヲ予想ス如何トナラハ多数日本軍隊ハ他ノ正面ヨリ逐次戦場ニ移動中ナレハナリ

ハ・「シテルン」ハ現陣地ノ確保ニツキ自信アルヲ以テ将来更ニ陣地両翼ノ拡大強化ニ努メ以テ「タムスク」地方突出部ノ一層広汎ナル占領ヲ期ス

ニ・「シテルン」ハ右計画準備ノ為「ポリソフスキー」ヲ先ツ「エグドズイル」（不詳ナルモ「サツパ」貝子南方ノ「ユクゴイル」カ）ニ派遣シ将来同官ヲシテ右翼方面ヲ「フェクレンコ」ヲシテ中央ヲ又「ジウコフ」ヲシテ左翼方面ヲ担任セシムル予定ナリ

ホ・「シテルン」ハ九月五、六日迄ニ満州国西部地方ニアル「パルチザン」ノ活動ヲ強化スヘク主張シアリ

4 八月三十日入手ノ情況（確度乙）

外蒙ニハ目下「ピリユーコフ」政治三等大将（独立第二軍軍事會議員）及「メフリス」アルモノノ如シ

5 八月三十日入手ノ情況（確度乙）

俘虜及文書調査ニ依レハ一九三七年末期ヨリ蘇軍飛行部隊ノ編成ハ旅団、連隊（ボルク）大隊（エスカドリリヤ）編隊ノ四隊ニ区分シ數箇（五乃至七）大隊ヲ以テ同型機連隊ヲ編成セルモノノ如シ

（註）従来ノ飛行大隊ニ關スル既存情報ニ対シテハ隊号及機數ニ關シ新タニ検討ヲ加フル必要アリ

●「ノモンハン」附近国境事件情報記録 第七十四号

昭和十四年九月二日

第五課

一、事件地方方面ノ戦況

1 地上部隊ニ關シテハ其後新報ヲ得ス

2 飛行部隊（八月三十一日）

イ・八月三十一日我カ飛行隊ハ九時、十五時ノ二回ニ亘リ敵機械化部隊ニケ連隊ヲ爆撃ス

ロ・我カ戦闘隊ノ一部ハ十五時頃「フイ」高地上空ニ於テ敵戦闘機十數機ト又一部ハ「イリン」台上空ニ於テ四―五十機ノ戦闘機ト又他ノ一部ハ二十數機ノ戦闘機ト夫々交戦シ撃墜確實ナルモノ二十機、不確實ナルモノ五機ナリ

ハ、我カ方ノ損害、友軍飛行場ニ帰還後墜落セシモノ戦闘機二不

時着ニ依ル機体大破戦闘機二外ニ戦死一負傷一ナリ

3 八月三十一日入手ノ情報（確度乙）

諜者報ニ依レバ八月上旬白露及「キエフ」両軍管区内ノ各部隊ヨリ抽出セラレタル下級幹部及特殊技術者ノ一団ハ極東方面ニ派遣セラレタリト

四、輸送情況

1 「チタ」―「モスクワ」間西伯利鉄道視察情況（確度甲）

イ、自八月二十四日至二十九日間「チタ」―「モスクワ」間沿線ニ於ケル作戦準備ニ関シテハ特ニ異状ナシ

ロ、右区間列車運行數ハ平時ヨリ五乃至十列車増加シアルコト確實ナリ、又「モロトフ」支線ハ一日二十五列車内外ナルモノノ如シ

ハ、目下鉄道輸送ノ重点ハ「ノモンハン」戰場ニ対スル軍需資材ノ前送ナルモノ一部兵力ノ輸送ニ任スル一方依然「バム」鉄道其他ノ建設ニ使用セラレアリ

ニ、東行列車ノ運行狀況左ノ如シ

八月二十四日（「アタマノフカ」―「ウランウデ」間）

軍隊列車 見ス

軍需品列車 一〇

八月二十五日（「バイカル」―「アルザマイ」間）

軍隊列車 七

軍需品列車 二四

八月二十六日（「クリクウエンナヤ」―「タイガ」間）

軍隊列車 五

軍需品列車 一九

八月二十七日（「ウビンスカヤ」―「オムスク」―「ワガイ」間）

軍隊列車 三

軍需品列車 一五

八月二十八日（「スウエルドロフスク」―「バレヂノ」間）

軍需品列車 三

八月二十九日（「シャーリヤ」―「モスクワ」間）

軍隊列車 一

計

軍隊列車 一六

軍需品列車 七一

ホ、目撃セル軍需品次ノ如シ

(1) 「アタマノフカ」―「オムスク」間

戦車六一、飛行機箱一五三、発動機箱六〇、七五耗砲八、
対戦車砲一〇、貨物自動車一八四一、乗用車四七、有蓋
自動車一一六、牽引車一四四、被牽引車二六〇、燃料「タ
ンク」一二五九

(2) 「オムスク」―「バレジ」間

飛行機箱二四、発動機箱三、貨物自動車二二二、乗用車
一六、被牽引車五〇、燃料「タンク」一五〇

ヘ、航空情報

(1) 「ソホンド」ニ飛行機ヲ見ス

(2) 「バーダ」ニ爆撃機二〇

(3) 「イルクーツク」ニ爆撃機三〇

(4) 「ヂヤルゴン」ニ旧式飛行機五

(5) 「ニジネウージンスク」ニ於テ飛行中ノ偵察機一

ト・「チタ」―「オムスク」間ノ停車場及鉄道橋ノ警備至嚴ナリ

チ・家族携行ノ各兵科將校多数ハ極東ヨリ「モスクワ」附近ニ向ヒ
ツツアリ

2 八月二十日入手ノ情報 (確度乙)

外蒙戰場ニ対スル軍需品ノ大量輸送ハ九月中旬迄継続セラルヘシ

八月二十日在「チタ」内務人民委員部發「モスクワ」人民委員部宛
報告要旨

目下外蒙作戦平静ナルニ拘ラス極東會議ノ決議ニ基ツキ短時日ニ軍
需品ノ貯蔵ヲ強要セラレ八月中旬ニ於ケル一週間ノ外蒙向到着量ハ
前月平均一週間ノ量ヲ凌駕シ九月半頃迄減少ノ見込ナシ

五、其他ノ情報

1 八月三十一日入手ノ情報 (確度乙)

「シテルン」等勲章ヲ授与セラル

八月三十日蘇連政府ハ「ノモンハン」附近ノ戦鬪ニ於ケル功ニ依
リ左ノ如ク勲章ヲ授与スルコトヲ発表セリ

イ・「蘇連ノ英雄」ナル名称ヲ「シテルン」ニ等大将、「ジウコフ」

軍団長、「ヤコブレエフ」師団長、航空少佐二名外ニ下士官

兵二十八名

ロ・「レーニン」勲章 五九五名

ハ・赤軍章 一三四名

ニ・武勇章 三三名

ホ・戦功章 五八名

2 八月二十九日入手ノ情報 (確度乙)

「スターリン」ハ飛行部隊ノ不首尾ニツキ製作責任者ヲ叱責ス

● 「ノモンハン」附近国境事件情報記録 第七十五号

昭和十四年九月四日

第五課

一、事件地方面ノ戦況

1 地上部隊 (九月二日)

イ・荻州部隊主力方面ノ敵ハ依然「ウヅル」水―「ホルステン」
河屈曲点ヲ経テ七八〇高地及七九一高地ノ線ヲ保持シアリ
テ其要点ニハ鉄条網ヲ構築シアリ

我カ主力ハ此ノ敵ト近ク相對峙シアリ

ロ・八月二十九日敵ノ砲撃ハ稍々緩徐トナレルモ敵ハ戦車ヲ以テ
依然「ウヅル」水及「アライトロゴイ」(將軍廟西南方約十軒)

附近ノ攪乱ヲ実施中ナリシガ三十一日以来敵地上及空中部
隊ノ活動ハ活潑ナラズシテ戦場ハ比較的平穩トナレリ、当面
ノ兵力ハ従来ト変化ナキガ如シ (本情報記録第七十一号「事
件地方面ノ敵情」参照)

ハ・長谷部支隊ハ八月二十八日「モホレヒ」湖附近ニ集結セリ

ニ・小松原部隊本部及山縣支隊ハ三十日夜半「ノモンハン」附近
ニ集結シアリ

ホ・国崎部隊先遣隊ハ三十一日將軍廟へ又高山部隊主力ハ「ヨシ

マル」(將軍廟東南約二十軒) 附近ニ到着セリ

2 飛行部隊(九月一日)

イ. 我カ飛行隊ハ九月一日十五時五十分ヨリ十六時二十分ニ亘リ

敵戦闘機四―五十機ト交戦シ撃墜確實ナルモノ三十二機不

確實ナルモノ八機ナリ

ロ. 本日ノ戦闘ニ於ケル我カ方ノ損害

未タ帰還セサルモノ 戦闘機 六

外ニ 戦死 一名

ハ. 訂正

本情報記録第七十四号我カ飛行隊ノ損害ハ、友軍飛行場ニ帰

還後墜落セシモノ軽爆機一機、不時着ニ依ル機体大破、軽爆

機一機外ニ戦死一、負傷一」ニ訂正ス

二、事件地方面ノ敵情及後方ノ情况

1 九月一日入手ノ情報(確度丙)

「シテルン」ハ「チタ」ニ帰還シ「ヤコヴレフ」ハ「シテルン」

ノ隷下ニ入レリ、又蒙蘇軍及「ザバイカル」軍管区ノ政治工作部

指導ノタメ「シテルン」ハ「ハバロフスク」ヨリ「ビリユコフ」

ヲ招致シ之レニ一任セシモノノ如シ

2 九月一日入手ノ情報(確度丙)

某情報ニ依レハ二等大将「シテルン・ゲ・エム」及政治三等大将

「ビリユコフ・エヌ・イ」(前独立第二軍軍事会議員)ヲ首脳トス

ル某司令部創設セラレタルモノノ如シ

3 俘虜情報ノ総合結果左ノ如シ(確度乙)

イ. 「ベルム」(「ウラル」軍管区)ニ於テハ狙撃一個師団ヲ編成セ

リ

ロ. 「タタアルスク」(「シベリヤ」軍管区「オムスク」東方)ニ於

テハ狙撃三個連隊ヲ編成セリ

ハ. 「アンチビーハ」及「ベスチヤンカ」(両所共「チタ」近傍)

ニ於テハ狙撃四個大隊ヲ編成セリ(爾後多数ノ召集兵到着中)

ニ. 「スレテンスク」ニ於テハ狙撃三個大隊ヲ編成シ「ボルジヤ」

經由ニテ其ノ大部ヲ戦線ニ一部ハ「ダウリヤ」方面ニ輸送セ

シモノノ如シ、而シテ是等ノ部隊ハ現役兵僅少ニシテ大部ハ

召集兵ヨリ成リ「ボルジヤ」下車後「ボルジヤ」―「ソロヴ

イヨフスク」間ニ於テ相当長期間ノ野營訓練ヲ行ヘルモノ多

シ

ホ. 召集地ニ於ケル現役部隊ハ召集部隊出發時迄ハ依然原駐屯地

ニ在リシモノノ如シ、又歐露各地ヨリ僅少ナル現役部隊(例

ヘバ莫斯科ヨリハ狙撃一分隊)ヲ抽出シ戦線ニ派遣シアリ而

シテ此ノ部隊ハ単ナル補充ニ非ラズシテ督戦的意義アルモ

ノノ如シ、機甲及航空部隊ノ俘虜ハ多クハ「コムソモール」

ニシテ狙撃部隊俘虜ニ比シ素質優良ナリ

ヘ. 「タムスク」ニハ従来機械化部隊駐屯シアル疑ヒ濃厚ニシテ右

ハ「ブイコフ」部隊以外ノモノト認メラレ水陸両用一大隊ア

リシコト確實ナリ

● 「ノモンハン」附近国境事件情報記録 第七十六号

昭和十四年九月五日

第五課

一、事件地方面ノ戦況（九月四日）

戦況大ナル変化ナク戦場ハ概ネ平穩ナリ

1 地上部隊

九月三日夜戦車四ヲ有スル狙撃四中隊、砲兵二中隊ノ敵ハ「ハンダガイ」東方約十軒一〇三一高地（？）ニ対シ夜襲シ来リ四日尚戦闘中ナリ敵ノ遺棄死体五〇、我カ方ノ損害戦死四負傷二〇ナリ

2 飛行部隊（九月二日）

イ・我カ戦闘隊ハ九月二日十三時四十分頃白温線方面ニ飛来セル敵「エス・ペイ」爆撃機四〇機及戦闘機約五十機ト交戦シ撃墜確實ナルモノ「イ」十六型戦闘機四機不確實ナルモノ同型四機ナリ。

ロ・地上ヨリノ報告ニ依レハ右ト同時刻頃「アルシヤン」附近ニ於テ敵爆撃機三機友軍機ノタメ撃墜セラレタリト

ハ・我カ損害、友軍戦線内ニ不時着セシモノ戦闘機一

二、事件地方面ノ敵情及後方ノ情況

1 目下「オロヴヤンナヤ」「ボルジャ」両駅ニハ連日砲弾ヲ積載セル列車到着シ同地ヨリ野戦部隊及後方格納地ニ運搬中ナリ又「ボルジャ」及「アクシヤ」国道一带ニ自動車大隊及各種部隊用ノ「トラツク」約一万台集結シアリ（九月二日入手確度乙）

2 俘虜ノ陳述ニ依レバ「ロストフ」（北「コーカサス」軍管区）駐屯「エス・ペイ」第十八大隊ノ七機ハ空輸ニヨリ八月四日「ロストフ」発八月十一日「タムスク」着同地ニ於テ二機ヲ加ヘ九機編隊ヲ以テ二十三日戦場ニ飛来セリト

3 狙撃第七十九師団ハ「イルクーツク」ヨリ「チタ」ニ移動セリ右

移動ニ伴ヒ国防人民委員部ハ第七十八及第九十四師団（駐、両師団共「シベリヤ」軍管区ニアリ）ヨリ各一部ノ兵員ヲ「イルクーツク」ニ派遣シ之ト、新召集兵トヲ以テ新タニ予備師団ヲ編成スルコトニ決セリト（九月三日入手確度乙）

4 八月三十一日入手ノ情報（確度乙）

補充戦車ト同時ニ着任セル旅団少将「コンドラチエフ」ハ狙撃第五十師団（目下「バルジヤガル」附近ニテ戦闘中）ノ指揮ヲ命セラレタリ、

5 俘虜調査情報（九月三日入手確度甲）

イ・「スレーテンスク」駐屯狙撃第一七〇連隊ハ充員ノ上八月十九日以後「ノモンハン」戦闘ニ参加セリ

ロ・「オロヴヤンナヤ」常駐狙撃第七二五〇部隊ハ「ノモンハン」ノ戦闘ニ参加シアリ

三、極東方面ノ情況

1 沿海州ニ於テ新飛行隊ヲ編成スル為及ヒ「ハバロフスク」及沿海州ニ於ケル飛行隊ノ予備機ヲ充実スル為「モスクワ」ヨリ飛行機ノ輸送開始セラレタリ（九月三日入手確度乙）

2 「シテルン」ヨリノ要求ニ基キ独立第二軍司令官「コーネフ」ハ同軍ヨリ「ザバイカル」軍ニ対シ派遣シ得ヘキ砲兵力ニ関シ砲兵監ニ訊セシニ砲兵監ハ日本軍ノ越境及海路ヨリノ上陸ニ備ヘサルヘカラサルヲ以テ派遣シ得スト回答セリ（九月三日入手確度乙）

●「ノモンハン」附近国境事件情報記録 第七十七号

昭和十四年九月六日

第五課

一、事件地方面ノ戦況

1 地上部隊ノ情况

イ、九月四日「ノモンハン」方面ニ於ケル戦況大ナル変化ナク全

般ニ亘リ概シテ平穩ナリ

ロ、敵情空中搜索ノ結果ニ依レハ「フイ」高地ニハ車輛約六十ノ

外大ナル部隊ナク又「ハルハ」河左岸地区ニモ大ナル部隊ヲ

認メズ

2 航空部隊ノ情况

イ、我が戦闘隊ハ四日十一時「フロン」山（「ハンダガヤ」南方十

軒）上空ニ於テ「イ十五」「イ十六」二十四機ト交戦シ次イテ

同十一時三十分国境上空ニ於テ「イ十六」ヲ主体トスル約三

十機ト交戦シ撃墜確実ナルモノ「イ十五」八機「イ十六」五

機、不確実ナルモノ八機ナリ

ロ、同時刻他ノ我力戦闘隊ハ国境附近上空ニ於テ「イ十六」二十

六機ト交戦シ撃墜確実ナルモノ九機、不確実ナルモノ六機ナ

リ

四日ニ於ケル総合戦果撃墜確実ナルモノ二十二機不確実ナ

ルモノ十四機ナリ

ハ、我力損害、戦闘機一機未タ帰還セス外ニ戦死一負傷ニアリ

二、敵後方情况

1 九月三日入手ノ情報（確度乙）

「ザバイカル」軍管区軍用通信部長及「チタ」電信部長■名ヲ

以テ軍用電信ノ優先的取扱令ヲ発表セリ

2 九月三日入手ノ情報（確度乙）

蒙蘇軍政治部発莫斯科宛報告要旨

イ、外蒙古戦線ニ日本軍増援部隊逐次到着シツツアルタメ「シユ

テルン」「ベリユコフ」（「シユテルン」司令部ノ軍事会議員）

ハ状況ヲ極メテ重大視シアリ而シテ兩名ハ蘇側ハ輸送困難

ナル為「ハルハ」河畔ノ兵力増強困難ナルニ反シ日本軍ハ鉄

道ニ依リ兵力弾薬ノ敏速ナル輸送ヲ行ヒ得ベシトノ意見ヲ

有ス

ロ、「シユテルン」ハ「イルクーツク」ニ予テノ計画タル第五軍ヲ

至急新タニ編成スル事ヲ主張シアリ

3 九月六日入手ノ情報（確度甲）

イ、「チタ」ニ於テ「モスクワ」ヨリ外科医ヲ派遣スル様要求シア

リ、之ニ対シ「モスクワ」ハ九月三日飛行機ニテ外科医及看

護婦二〇名ヲ派遣スル筈

ロ、「ノウオシピリスク」ニ於テハ事件発生後病院ヲ数ヶ所ニ特設

シアリ、尚最近後送セラルル負傷兵甚ダ多ク「チタ」ノ要求

ニハ応シ得スト

ハ、「モスクワ」ヨリ「ノウオシピリスク」及「ウランウデ」ニ宛

医療機械及薬品多量ヲ送附シツアリ

ニ、右ニ依レハ戦傷者ハ「チタ」「ウランウデ」ニ後送スル■他「ウ

オシピリスク」方面ニモ後送シツツアル疑多シ

三、西伯利鉄道ノ輸送情况（「チタ」駅ニ於ケル視察）

1 八月上旬集中輸送完了ト共ニ爾後補給並補充輸送ニ轉移シアリテ最近ニ於ケル輸送情況左ノ如シ括弧内ハ視察時間ヲ示ス

八月十五日（十四時—十八時）

多数ノ馬匹ヲ有スル狙撃部隊一列車東行ス

八月十七日（二時—五時）

軍隊輸送一列車（兵種不明）東行ス、航空将校（大部ハ中尉）

約四十名「チタ」駅ニテ満州里行国際列車ニ乗車ス

八月十七日（十八時—十九時三十分）

木箱ニテ覆ヘル戦車ラシキモノ約二十五及歩兵若干ノ一列車東行ス

八月十八日（〇時—四時）

東行列車数旅客三、貨物四（内油槽列車一）

航空将校三、四十名浦鹽行列車ニテ到着ス

八月十九日（十四時三十分—十六時）

貨物列車一 旅客列車一 軍事輸送ナシ

八月二十二日（十四時—十七時）

貨物列車五（内油槽列車二）

2 満州里支線輸送情況（視察）

イ、満州里支線ハ補給輸送ノタメ列車輻輳シ遅延甚ダシ

ロ、「オロワシナヤ」（八時）「カリムスカヤ」（十五時）間東行軍

需品列車二十一、内訳左ノ如シ

自動貨車約二百三十（三割ハ補給車又ハ無線車）、牽引車百、

「レール」ヲ積載セルモノ約四〇輛、油槽車約百（内二割ハ

「ケロシン」）、航空兵五十、黒襟兵三百、赤襟兵百五十乃至

二百、其他自動車搭載ノ鉄舟部隊一列車及木材、鉄線等アリ
ハ、「カリムスカヤ」—赤塔間東行貨物列車一〇列車主トシテ軍需

品ノ如シ

四、爾他正面ノ情況

八月三十一日在爾監沿海管区警備隊司令官「スクハ—ノフ」ハ管内各警備隊ニ対シ左記訓令ヲ発ス（確度甲）

先頃管内警備隊ヨリ至嚴警備ヲ通常警備ニ移行スヘキ許可ヲ要請セシモ目下満州国内及沿海管区国境ニ於ケル日本軍ノ行動益々積極化シツアルヲ以テ依然至嚴ナル警備ヲ継続シ且ツ戦闘政治教育ヲ停止スヘカラス

●「ノモンハン」附近国境事件情報記録 第七十八号

昭和十四年九月七日

第五課

一、事件地方面ノ戦況

1 地上部隊ノ情況

イ、九月五日「ノモンハン」方面ノ戦況ハ地上、空中共ニ一般ニ平穩ナルモ敵ハ「ホルステン」河兩岸地区ニ於テ益々其ノ陣

地ヲ強化シツツアリ

ロ、「ホルステン」河右岸ニ於テハ「ソウホルマルテ」湖（將軍廟西方約十八軒）東側地区ヨリ其ノ東南約六軒七四二高地「ウズル」水西北側並其南側高地「ホルステイ」湖東側高地「イリンギングアガン」東側高地七五七高地ヲ經テ七三八高地ニ

亘ル線二点々陣地ヲ構築シアリ

ハ、「ホルステン」河左岸地区ニ於テハ「ニゲーソリモト」東北方約二軒附近ヨリ七八〇高地七九一高地ニ亘ル陣地ヲ強化スルト共ニ特ニ其ノ右翼ハ逐次東方ニ延伸シツツアリテ七九七高地八二七高地及其東南地区ニ亘リ陣地構築ヲ開始シアリ

ニ、一〇三一高地（「ハンダガイ」東南方約二十軒）方面戦況敵ハ其ノ砲兵掩護ノ下ニ新鋭部隊ヲ以テ「ハルハ」河ヲ渡河シ逐次其ノ兵力ヲ増加シ、我左翼ノ包囲ヲ企図シアルモノノ如ク四日十六時ヨリ十九時ニ亘ル間我陣地ニ対シ三方面ヨリ猛烈ナル砲撃ヲ実施セリ同夜ハ斥候ノ衝突ノ外大ナル戦鬪ヲ交ヘズ当面ノ敵兵力ハ「ソ」軍歩兵一連隊、砲兵一大隊ヲ下ラザルガ如シ四日ノ戦鬪ニ於ケル敵ノ損害ハ相当大ナルモノノ如ク遺棄死体約三十、我損害ハ戦死三重傷六

2 九月七日入手ノ情報（確度乙）

九月四日「ザバイカル」軍管区政治部発「モスクワ」宛報告要旨
イ、「ザバイカル」軍管区飛行隊ヲ以テ蒙蘇軍第二軍ヲ掩護スヘシトノ国防人民委員部命令ヲ正確ニ遂行セリ

ロ、該管区ノ飛行三ヶ旅団ハ蒙蘇軍第二軍飛行司令官ノ指揮下ニ入り作戦的二隷属スルコトナレリ

ハ、昨三日「ジャウオロンコフ」ハ当地ニ着セルガ「ソロウイスキー」ハ飛行基地ニ要スル修理工及「エス・ペー」機部分品ヲ「バイントメン」ニ発送センコトヲ要求セリ

ニ、航空本部ト連絡シ「ザバイカル」軍管区飛行隊ノ作戦及資材

ニ関シ隷属関係ニ確然タル限界ヲ附セラレンコトヲ希望ス

●「ノモンハン」附近国境事件情報記録 第八十号

昭和十四年九月十一日

第五課

一、事件地方面ノ戦況

1 地上部隊情況

イ、「ノモンハン」方面八日戦況

「ヨシマル」西南方約二十軒九四四高地西方二軒ノ高地ヨリ九〇四高地ヲ経テ九九七高地ニ亘リ陣地ヲ占領セル我部隊正面ニ於テ八日十二時頃ヨリ戦車約百輛歩騎兵約四五百ノ敵ハ八九三高地南側地区ヨリ攻撃シ来リシモ同日十八時頃撃退セリ空中偵察ニ依レハ該方面ハ尚兵力増加セラレアリ

ロ、我力飛行隊ノ搜索ニ依レハ敵ノ左翼方面ハ「マンジテ」湖「フイ」高地東方約五軒ヨリ「フイ」高地東北方約三軒ニ亘リアリ

ハ、一〇三一高地方面情況

七日特ニ敵ノ後方ニ往復スル自動車ノ行動活潑トナリ銳意攻撃準備中ナルカ如ク判断セララル

ニ、九日我部隊ハ一〇三一及一〇三五高地ヲ確保シアリテ当面ノ敵ハ其南方地区ニ陣地ヲ占領シアリ

2 飛行部隊情況

イ、九日十六時頃哈爾哈廟「ボイル」湖東北端上空ニ「イー」十

六型駆逐機五機現出セル外敵機ノ活動大ナラス

ロ、九日我カ飛行機ノ搜索ニ依レハ「タムスク」地区飛行場二大型機一小型機十四ヲ認メタルノミ「サツパ」地区飛行場二大型機二、小型機若干「サツパ」東北約二十軒ノ飛行場二小型機十三其他飛行場ニ敵機ヲ見ス以上合計「タムスク」以東ニハ敵機約四十ト判断セラル

二、爾他正面ノ情況

1 「アヌチノ」(「スパスク」東南方約百軒「ダウビヘ」河谷)附近ノ大飛行場建設工事ハ完成ニ近付キツツアル旨「ジガーレフ」(第二軍所屬航空中將)ハ第一軍司令官ト通話セリ
(五日入手確度乙)

2 七日「クイブイシエフ」衛戍司令官ト哈府トノ通話

「クイブイシエフ」飛行場ハ拡張工事中ニシテ「チタ」軍管区ニ移動セシ飛行隊ノ代リニ新飛行旅団ノ編成ヲ見ル筈(確度乙)

3 イ、「ウオロシーロフ」ニ於テ既ニ歐露ニテモ編成セラレタル九号型装甲自動車旅団ガ編成セラレツツアリ

ロ、該旅団ハ騎兵軍団ニ編入スル予定ナリシガ偵察及先遣部隊トシテ機械化軍団ニ編入スルコトニ決セリ

三、其他ノ情報

1 国防人民委員部ハ本年度入營兵ノ軍事教練実施ニ関スル調査命令ヲ發シタルカ其際新兵ニシテ外蒙戰線ニ戦死セルモノアルモ一般ニ新兵ノ軍事教練ノ低下シアル事実ヲ指摘セリ(六日入手確度乙)

2 イ、蘇軍ニ於テハ全軍管区及獨立軍ニ對シ國民皆兵法案ヲ可決シ

現役兵力ノ飛躍的増大ヲ計ルノ外極東へ(外蒙へノ補充部隊ヲ含ム)約十萬ノ各種兵力ヲ派遣スヘク右兵力ノ中狙撃部隊

ハ「ザバイカル」軍管区へ、飛行隊及機甲部隊ハ沿海地方へ派遣セララルカ如シ

ロ、蘇連ニ於テハ外蒙戰線以外ノ国境地帯以外ニ於テ日本軍牽制ノ為逆襲スヘシトノ「シユテルン」ノ意見具申ニ對シ目下審議中ナルモ「ザバイカル」軍管区ニ對シテハ万一ノ場合ヲ考慮シ特別地帯住民ノ立退キ準備ヲ為スヘク指示セラレタリト

ハ、「シユテルン」ノ五箇軍分散ノ一案

第一軍 「ウオロシーロフ」

第二軍 哈府

第三軍 「チタ」

第四軍 「イルクーツク」

第五軍 外蒙

国防人民委員部ハ同案ヲ採択シ「シベリヤ」軍管区ニ對シテハ既ニ狙撃及機甲部隊ヲ「イルクーツク」「チタ」州ニ輸送スヘク命令セリト(確度乙)

●「ノモンハン」附近国境事件情報記録 第八十一号

昭和十四年九月十二日

第五課

一、事件地方面戰況

1 地上部隊情況

(1) 一〇三一高地方面ノ情況

当面ノ敵兵力ハ步兵二大隊、砲十門、戰車數輛ナルモ戰況ハ未タ切迫シ非ス我ハ依然一〇三一高地及一〇三五高地ヲ確保シアリ(十日頃)

(2) 「ヨシマル」西南方地区ノ情況

イ. 八日当正面ニ攻撃シ来レル敵ハ機械化部隊ニシテ其總兵力ハ戰車約百五十輛車載步兵約二百、砲約十七、八門ナリ

ロ. 九日八時歩兵約二百、戰車約四十輛ノ敵ハ九〇四高地及其ノ北方高地ニ向ヒ攻撃シ来ル我部隊ハ九四四高地及九九七高地ヲ確保シ敵ヲ陣前ニ破摧シツツアリ敵ニ与ヘタル損害ハ擱座又ハ破壊シタル戰車約二十輛、遺棄屍體約七十二シテ我方ノ損害亦相当アリ

(3) 主力方面

九日我主力正面ノ敵情大ナル変化ナキモ午前中「ウズル」水附近ノ敵砲兵ハ盛ニ「モホレヒ」湖附近ヲ射撃セリ

(4) 敵戰場通信系ハ「ハンダガイ」方面ヲ除キ依然閑散ナルモ九日夕刻ヨリ「チタ」及「ウランバートル」ヨリ戰鬪司令所宛ノ交信活潑トナリ後方通信系ハ活況ヲ呈ス諸情報ヲ總合スルニ敵ハ我軍ノ攻勢ヲ考慮シ之ニ対スル諸準備ヲ整フルト共ニ特ニ「ザバイカル」方面ヨリノ兵力輸送ヲ開始セルニ非スヤト現地部隊ハ判断シアリ

2 飛行部隊ニ関シテハ新報ヲ得ス

五、鐵道輸送並沿線情況

1 八月中旬「チタ」—武市間旅行者ノ報告

(1) 輸送狀況

一時中絶シアリシ「カルイムスカヤ」以東ノ軍事輸送ハ八月中旬以降若干復活ヲ見ルニ至レリ

イ. 東行軍事輸送左ノ如シ

十三日 「トラツク」五十輛、乗用車十輛、乗用車十輛(黒襟赤縁兵卒領ス)

十四日 「トラツク」四十輛(兵卒領ス)

有蓋貨車一列車(歩兵卒領ス)

病院自動車二十四輛、乗用車三十輛

十八日 軍需品(彈藥?)一列車(兵卒領ス)

而シテ東行列車ニ常ニ多數見タル「トラツク」、建設材料油槽車ノ比較的減少シアル外特殊ノ現象ヲ認メス

ロ. 西行列車中馬匹(軍馬ニ非ス)一列車ヲ認メタル外特異ノ事象無シ

(2) 沿線ノ情況

駅、鉄橋、其他一般ノ警備状態ニ変化ヲ認メス

「ブラゴエ」支線及「クイブイシエフカ」附近ニハ軍隊依然野營シアリ但シ野營位置及天幕數ノ若干ノ変化ヲ認メ部隊ノ交代ヲ思ハシムルモノアリ

(3) 飛行場ノ情況

「セルイシエオ」 「デー・ペー」三型三機、「エル」

五型? 六機

「クイブイシエフ」 「エス・ペー」十七—二十一機、

「エル」五型 五機

「スレドネベーラヤ」 「エル」五型及「エル・ゼツト」

十六機

「イー」十五型五機、「イー」十六

型 二十機

右ハ概ネ七月下旬ト同一情況ニシテ爾後變化ナカリシカ如シ但国境ニ近キ「スレドネベーラヤ」ニ駆逐、偵察機ヲ推進セルハ注目ヲ要ス

(4) 「ブラゴエ」支線上「ベリヨーンゾフカ」駅ヨリ「チエレムホウオ」方面ニ向ヒ輕鉄敷設工事開始セラレ迅速ニ進展シツツアリ

右ハ「チエレムホウオ」駐屯第六九師団ノ補給線ナラント判断セラル

(5) 武市情報

市内平静ニシテ特異ナル現象ヲ認メス物資ハ地方的産物ヲ除クノ外漸次欠乏シ来ル傾向アルモ未タ顯著ナラス

2八月二十三日出満二十九日赤塔着旅行者ノ沿線視察情況

(1) 「オロヴァンナヤ」以東ニ於テハ列車ノ窓ニ「カーテン」ヲ

下セル為視察極メテ困難ナリシモ主要駅ノ情況左ノ如シ

イ・「ハダブラーク」駅「ホーム」ニ「メリケン」粉袋堆積

セラレアリ又引込線油槽列車三ヲ認ム

ロ・第七九駅「ホーム」附近ニ砲弾小銃弾ラシキ弾薬箱山積シアリ(約十万箱ト推算ス)尚同駅ニ輕鉄用機關車

十輛尚貨車約八十輛、同客車三十輛、幕舎約九十(二、

三十人収容)アリテ第七九駅付近ヨリ「ソロウイヨフ

スク」方面ニ輕鉄ノ存在ヲ疑ハシムルモノアリ

ハ・第八〇駅ニ幕舎二百、「トラツク」三百、弾薬目算約三万箱アリ

ニ・「ダウリヤ」附近ノ各駅ハ従来通り市民ノ附近ヲ散歩スル者モ無ク寂寥ナリ軍用資材ノ卸下アルヲ見ス

(2) 遭遇列車

イ・滿州里線(「アガ」以西) 十五列車

内訳 給油槽車 一列車

純貨物自動車 二列車(内覆付装甲車 八輛、

給油車 十輛)

牽引車 一列車

兵員 一列車

被牽引車 一列車

木材 四列車

他ハ總テ有蓋貨車ニシテ鉄線「レール」、石炭等ヲ積載ス

ロ・本線「カルイムスカヤ」—「チタ」間 十五列車

木材、鐵道建設材料、貨物自動車、乗用自動車、牽引

車、石炭等多シ、尚水兵ノ乗組ミタルモノヲ認ム

●「ノモンハン」附近国境事件情報記録 第八十二号

昭和十四年九月十三日

第五課

一、事件地附近戦況

1 地上部隊ニ関シテハ新報ヲ得ス

2 飛行部隊ノ状況

イ、十二日天候回復シ敵機ノ活動再ヒ活潑トナリ戦場上空主トシテ「ホルステン」河以北ノ地区ニ行動シ其ノ延数駆逐機四〇機ニ及ヘリ

ロ、十二日我飛行隊ノ搜索ノ結果ニ依レバ十時頃「ポイル」湖南方地区及「タムスク」附近ノ飛行場群ニ合計大型機一六機、小型機六八機、「サンベーズ」ニ大型機一八機、小型機二〇機ヲ見タリ

ハ、「ポイル」湖附近飛行場ノ敵機ハ夕刻ニハ減少セリ敵機ハ昼間ノミ前線飛行場ニ前進シ夜間後退スルモノノ如シ

ニ、我戦闘隊ハ十二日主力ヲ以テ戦場上空ヲ制空セルモ敵ト遭遇セス

二、「ハンダガイ」及「ヨシマル」西南方地区方面ニ対スル蘇軍ノ攻撃ニ関スル関東軍ノ判断次ノ如シ

1 蘇側攻撃ノ目的ハ彼ノ主張スル国境線ヲ奪還シテ其ノ作戦目的ヲ達スルト共ニ実質的ニ之ヲ保有シ外交交渉ニ移ル場合之ヲ基礎トシ名実共ニ彼ノ主張スル国境線ヲ獲得セントスルニ在リ（目下彼ノ攻撃シツツアル地点ハ何レモ彼ノ主張スル国境線内ニ在リ）従ツテ此ノ攻撃ハ全面的トナルノ可能性少ク局部的地点奪取ニ止マルモノナラン

2 蘇軍ハ九月初ヨリ更ニ戦場ニ兵力ヲ増加シツツアルモノト推断スルモ其ノ目的ハ我カ兵力集中ニ対応シ其ノ防衛力ヲ増加スルヲナラント判断ス

3 東北正面特異ノ状況ヲ認メス

三、事件地方面敵情及敵後方情况

1 戦場情報隊ニ於テ取調ヘタル投降兵ノ陳述ニ依レハ第七二二号狙撃連隊ハ六月中旬「チエリヤビンスク」（狙撃第八五師団駐屯地ニシテ「ウラル」軍管区ニ在リ）附近「シワルクリン」野営地ニ於テ民兵ヲ以テ編成セラレ七月二十日頃野営地出發八月一日頃「ボルヂヤ」駅下車同五日頃「ハルハ」河左岸ニ到着シ予備隊トナリアリシカ九月一日頃第一線ニ増加セラレタルモノノ如シ（確度乙）

2 通信状況ヨリスル現地部隊ノ判断

イ、通信系ヲ以テ判断スルニ外蒙蘇軍高等司令部ハ概ネ八月下旬迄「タムスク」ニアリ爾後「サツパ貝子」ニ移動シタルモノノ如ク主トシテ「ウランバートル」及「チタ」ト通信シアリ十一月後方トノ通信急増セリ

ロ、戦場情報隊ノ報告ニ依レバ蘇軍ノ通信系ヨリ判断シ其主力ハ哈爾哈河左岸川又ヲ通ズル東西ノ線以南ニ在ルモノノ如シ

3 十日「ウランバートル」駐劄内務人民委員部代表ノ報告ニ依レハ外蒙向ケ生活必需品ノ到着数量ハ不十分ニシテ其ノ配給ハ各方面毎ニ不均衡状態ニアルモ外蒙古住民ノ動向ニ関シテハ何等危険ナルモノヲ認メスト（確度乙）

4 十二日飛行隊ノ偵察ニ依レハ十四時頃「タムスク」附近約六〇輛又「サンベーズ」―「ボルヂヤ」道ノ内西方道路上ニ於テ「サン

「ベーズ」北方約五十軒附近ニ於テ約一五〇輛ノ同中央道路上ニ於テハ約五十輛ノ南行自動車輛ヲ見タリ

「サンベーズ」ヨリ「ボイル」湖東方ニ通ズル道路ハ自動車兵站線ナルモノノ如シ

四、爾他正面ニ於ケル情況

1 七日第一軍司令官ト「シユテルン」ノ通話飛行一旅団莫斯科南方「オリヨール」ヨリ沿海州ニ移動中尚現地沿海州ニ於テハ「オソアビアヒム」所屬飛行士、飛行学校生徒並ニ予備機ヲ以テ更ニ一旅団ヲ編成シ「アヌチノ」(「スバスク」南方約百軒)及「ホロリスコエ」ニ各一旅団ヲ駐屯セシム(七日入手確度乙)

2 八日海軍人民委員部ト太平洋艦隊トノ通話要旨

イ、「アムール」艦隊所屬全船舶ハ「アムール」及「ウスリー」河ニ依リ軍需品輸送援助ニ從事中ニシテ該艦隊当局ハ結氷期ニ於ケル繫船及修理改造計画ヲ作製中ナリ

ロ、海軍人民委員部ハ「アムール」河ノ曳舟建造ハ開航前ニ完成ヲ要スルニ拘ラス閉航直前ニ完成スル如ク計画シアル現狀ニ不滿ヲ表シアリ(八日入手確度乙)

●「ノモンハン」附近国境事件情報記録 第八十五号

昭和十四年九月十六日

第五課

一、停戦協定ノ成立

八月十五日莫斯科ニ於テ停戦協定成立シ十六日午前八時(日本時間)

ヲ以テ戦闘ヲ中止スルニ決セリ

二、事件地方ノ戦況
1 地上部隊ノ情況變化無シ
2 飛行部隊ノ情況

イ、十四日十三時三十分頃我が戦闘隊ノ一部ハ敵ノ戦闘機約三十機ト遭遇シ其ノ三機ヲ確實ニ撃墜シ外ニ不確實ナルモノ六機アリ我方ハ未ダ一機帰還セズ

ロ、十五日十一時頃我戦闘隊ノ全力及輕爆ニヲ以テ「ボイル」湖附近ノ敵ヲ攻撃シ、空地ノ敵ニ相当ノ損害ヲ与ヘタリ

判明セル成果撃墜確實三十九機撃破確實五機不確實ナルモノ別二十九機

我方ノ損害未タ帰還セサルモノ八機外ニ小破損ヲ受ケタルモノ三機

(訂正) 第八十四号、飛行部隊ノ情況中十四日ヲ十三日ト訂正ス
三、爾他正面ノ情況

イ、十一日入手ノ情報(確度乙)

最近完成セル「アヌチノ」大飛行場ニ於テ飛行旅団ノ編成ニ着手セリ又同飛行場ニハ有力ナル高射砲ヲ配置セリト

ロ、十日入手ノ情報(確度乙)

戦車操縦手教育ノ為「ハバロフスク」講習所ハ「ブラゴエシチエンスク」及「コムソモリスク」ニ夫々支所ヲ開設中ナリ

四、其他ノ情報

九月十五日「ザバイカル」軍管区航空司令部ハ隸下各部隊長及軍事委員ノ会同ヲ「ドムノ」ニ於テ実施ス(確度甲)

〔現地参謀ト連絡〕

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年六月二十五日一・〇〇

第五課 甲谷少佐受

一、昨二十四日空中戦況

朝七時ノ空中戦鬪ノ外顕著ナル戦鬪ナシ

偵察ノ結果ニ依レハ「タムスク」、「マタード」東南地区及「サツパ」

附近ニ在ル敵飛行機ノ数ハ中、小型合計約二百機(詳細電報ニ依ル)

二、昨二十四日地上戦況

二十四日早朝ヨリ戦車約五十輛将軍廟ニ向ヒ攻撃シ来レルモ之ヲ撃

退セリ、十六時迄ニ判明セル敵ニ与ヘシ損害確實ナルモノ戦車九輛、

自動車一輛、其他死傷多数ノ見込、

我方損害僅少ナルカ如シ

二十四日偵察ノ結果ニ依レハ「ハルハ」河兩岸地区ノ敵兵力ハ外蒙

軍ニケ師団(騎兵師団)ヲ下ラス、同河兩岸地区ニ亘リ数線ニ陣地

ヲ占領シアリ

「ツアガン、オーラ」方面ノ敵ハ自動車百余輛ヲ有スルモノノ如シ

三、其他ノ正面東部北部共依然変化ナシ

一、事件地方面ノ狀況

イ、二十四日将軍廟ヲ攻撃シ来レル敵ハ悉ク「ソ」軍ニシテ戦車、

装甲自動車自動貨車合計約七十輛砲七門早朝ヨリ夕刻ニ亘リ

屢々執拗ニ至近距離ニ肉迫シ来レルモ悉ク之ヲ撃退セリ敵ノ損

害ハ戦車装甲自動車計十輛死傷少クモ五十名ヲ下ラズ我方ノ損

害戦死四、負傷十五、夜間戦鬪ニ於テハ損害ナシ

我部隊将兵ノ志氣極メテ旺盛ナリ

ロ、二十五日将軍廟前面ノ敵ヲ見ズ

二十五、六両日空中戦ニ関スル情報ナシ(天候不良ノ為ナラン)

二、事件地外方面ノ狀況

イ、東部、北部国境方面異状ナシ

ロ、知多方面概シテ平靜ニシテ特大ナル輸送無ク「モロトフ」鉄

道(満州里ノ「カルイムスカヤ」線)亦概シテ閑散国境方面特

別ノ緊張ヲ認メス

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年六月二十七日一・〇〇

第五課 甲谷少佐受

一、本二十七日早朝「ポイル」湖附近ニ於テ有力ナル我カ飛行隊ハ敵機

二百ト遭遇、約三十分ニ亘ル戦鬪ノ後引キ続キ「タムスク」飛行場

ヲ空襲セリ

敵ニ与ヘタル損害、確實ニ撃墜九十八、不確實ナルモノ六、地上ノ

敵機ニ与ヘタル損害中程度破壊十、小程度破壊十(二十?)ヲ下ラ

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年六月二十六日一七・二〇

第五課 甲谷少佐受

ス

我方戦闘機二、司令部偵察機一未夕帰還セス

二、昨二十六日午後六時「カンジュール」南方二十軒ニ於テ敵機約四十機

ヲ迎撃セル我飛行隊ハ其十六機ヲ撃墜我方損害無シ

三、地上ニ於テハ状況変化無キ模様ナリ

四、事件地正面以外東部北部共異状ナシ

猶太自治州極東鉄道沿線降雨ノ為出水シ交通阻害セラレアルカ如シ

五、野原大尉ハ本夕新京発第一線ニ向カフ

●「タムスク」爆撃二関スル「タス」発表

昭和十四年六月二十八日

第五課

「ソ」蒙軍司令部ヨリ得タル情報ニ依レハ六月二十七日日満空軍ハ外蒙領「タムスク」地方（国境ヨリ一二〇軒）ヲ攻撃セリ日本空軍ハ戦闘機八〇、爆撃機三〇ヲ算セリ戦闘ノ結果日本軍ハ七機（爆撃機二ヲ含ム）ヲ失ヒタリ

六台ノ「ソ」連機ハ未夕基地ニ帰還セスシテ目下搜索中ナリ（以下畧簡単ニ其他ノ方面ニ状況ヲ附加シアリ

●「ノモンハン」附近国境事件「タス」発表（二十九日朝）

昭和十四年六月二十九日

第五課

戦闘機ヲ以テ護衛セラレタル十五台ノ日本爆撃機ハ再ヒ「ブイノール」湖附近ニ於テ外蒙領土内ニ侵入セリ高射砲砲火並「ソ」連戦闘機ノ対戦ヲ受ケツツ日本空軍ハ目標ヲ失シタル数発ノ爆弾ヲ投下シ戦闘ヲ避ケテ満領ニ退却セリ「ソ」連高射砲並戦闘機ハ日本機二台ヲ撃墜シ二機共ニ外蒙領内ニ墜落セリ

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年六月二十九日一〇・三五

第五課 長濱少佐受

一、事件地附近ノ状況

1 将軍廟ノ戦闘後各方面共ニ地上部隊ノ戦闘ナク極テ平穩ナリ

2 二十八日空中亦平穩ナリ

敵航空部隊ノ再建工作ハ目下ノ処小規模ノ損害補充ヲ出テサルモノノ如シ

二、事件地以外ノ状況

東部及北部方面ニ於テハ独立第一、第二赤旗軍及国境警備隊力警戒ヲ嚴ニシ一部ノ示威的行動、諜報網ノ強化、及小謀略ヲ企図シアルカ如キモ未夕重大ナル変化ヲ認メス

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年六月二十九日一六・一〇

第五課 長濱少佐受

一、事件地以外正面ノ状況

1 東部正面

昨二十八日より天候恢復セリ

国境視察ノ結果左ノ如シ

イ、綏芬河以南一般ニ平穩ニシテ異状ヲ認メス

二十八日「ウオズドヴィヂエンカ」飛行場ノ飛行隊ハ出場セ

ス、地上ニ「テ・ペ」五型三、機種不明 大型七、「イー」一

六型三待機シアルヲ見タリ

尚「ボルタフカ」附近ハ平常ノ如ク点灯シアリ

ロ、虎林正面ニ於テハ依然陣地構築作業ヲ続行シアル外異状ナシ

2 北部正面

「ブリユツヘロウオ」「エカテリノニコリスク」方面ニ於テ数日来一

部ノ牽制的行動ヲ見シ外異状ナシ

要スルニ東部及北部正面共ニ状況大ナル変化ヲ認メス

二、事件地方面ノ状況

1 二十八日「ドロト」湖（將軍廟東々南約三十五軒）附近ニ敵装甲

車及騎兵出沒シ滿軍斥候ノ一部之ト衝突セル外地上ハ一般ニ平

静ナリ

2 我飛行隊ハ二十六日「アムグロ」附近ニ於テ「パキシユート」ニ

テ降下セル「ソ」軍ノ飛行中尉ヲ捕獲セリ

第五課 長濱少佐受

一、事件地正面

1 空中、地上共ニ大ナル変化ナシ

2 「ハンダガヤ」方面ニ於テハ敵ハ「ハンダガヤ」西南「ハルハ」

河左岸ニ新ニ陣地構築ヲ開始セリ

3 「ハルハ」河ハ最近豪雨ノ為増水シ所々河幅ヲ増大シアリ（十万

分一地誌図参照）

4 「ボイル」湖西岸ニ於テ越境逃亡シ来レル外蒙兵ノ供述ニ依レハ

本人ハ「マタツト」駐屯外蒙騎兵第五師団ニ属スト

尚外蒙騎兵第六師団ハ「ノモンハン」方面ニアルモノノ如ク「サ

ンベーズ」ニハ別ニ番号不明ノ外蒙騎兵師団アリト

註

本人ノ供述ハ当方ノ配兵情報ト著ク相違シアルヲ以テ目下之ヲ

査覈中ナリト

二、事件地以外正面ノ状況

1 東部正面

（イ）独立第一赤旗軍ハ二十九日狙撃部隊ヲ逐次国境陣地ニ配置

シアルカ如ク同日午後ヨリ「コンスタンチノフスキー」、

「グロデコウオ」方面ニ於テハ部隊及「トラツク」輸送稍々

活潑ナリ

又同方面ノ「トチカ」ニ弾薬ヲ分配シ陣地一部ノ強化及偽

装等ヲ開始セリ

（ロ）同方面ニ於テ二十九日夜ヨリ至嚴ナル灯火管制ヲ実施ス

（ハ）密山、半截河、虎頭、饒河、同河方面大ナル変化ナシ

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年六月三十日一六〇〇

2 北部正面

目下何等積極的企図ヲ認メス狀況大ナル變化ナシ

●齋藤派遣參謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月一日一一三五

第五課 長濱少佐受

(一) 事件地以外ノ方面

1 独立第一及第二赤旗軍方面

「タムスク」空襲以來漸ク緊張ヲ呈シ飛行部隊ノ出動準備、一部兵力ノ推進、陣地ニ対スル一部ノ配兵並彈藥補充、野營部隊ノ衛戍地帰還及灯火管制等実施セラレアリ
国境警備隊モ陸海全正面ニ亘リ至嚴警戒及応急準備ヲ実施ス
然レトモ以上ノ狀況ハ概ネ受動的ナルモノノ如ク目下ノ処未タ積極的企図ノ兆候ヲ認メス

2 連絡ノ為当地ニ出張セル戍集団岡部參謀ノ談ニ依レハ蒙疆方面ニ於テハ未タ積極的企図ヲ認メスト

(二) 事件地方面

1 一昨二十九日「ハンダガヤ」西北方約三十軒ニ於テ我將校斥候

敵ト遭遇シ又同日夕滿軍部隊及我將校斥候「ノモトソーリン」

東南方ニ於テ敵機甲部隊ト交戦セル外一般ニ平穩ナリ

2 三十日飛行機ノ出動セルモノヲ認メス

3 「ハルハ」河兩岸ノ敵陣地ニ関シテハ要図ヲ以テ報告セル外左ノ如シ

(イ) 「ハルハ」河「ホルステン」河合流点附近ノ橋梁ハ舟橋一

本ノミニナリ

別ニ「ボイル」湖東北端ニ橋梁ヲ架設シアリ

(ニ) 「ノモンハン」部落ニハ陣地ナシ

(ハ) 敵陣地ノ右翼ハ概ネ要図ノ通りニシテ「ハルハ」河右岸ニアリテハ七四四高地左岸ニアリテハ「スンプルオボー」附近ナリ

(三) 「ハルハ」河ノ狀況

合流点ヨリ上流三十軒ハ水深二米、流速一米、河幅六百米、深サ二十乃至三十糎ノ泥田ニシテ徒渉ヲ許サス

4 二十八日將軍廟附近ニ逃亡シ來レル外蒙兵ノ陳述ニヨレハ

(イ) 本人ハ「ウランバートル」騎兵第一師團ノ補充員トシテ入隊シタルモノナルカ六月二日輸送セラレテ騎兵第六師團ニ配属換トナリタルモノナリ

(ロ) 第六師團ハ七日夜「ハルハ」河ヲ渡河シ「ホルステン」

河南方ニ陣地ヲ構築ス

(ハ) 第六師團ノ機甲部隊ハ輕装甲車二、重装甲車十ヨリナル

5 齋藤參謀ノ事件地附近敵兵力判断左ノ如シ

(イ) 「ホルステン」河南方 外蒙騎兵第六師團

(ロ) 「ホルステン」河北方 「ソ」軍狙撃第八連隊及「ソ」

軍機甲旅團

(ハ) 「ハンダガヤ」方面 外蒙騎兵第八師團

(ニ) 「ボイル」方面 外蒙騎兵第五師團ト「ソ」軍ノ一

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月一日一六・〇〇

第五課 長濱少佐受

- 一、東部北部共二大ナル変化無シ
- 二、戰場方面亦大ナル変化無キモノノ如シ

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月二日一〇・五〇

第五課 甲谷少佐受

- 一、事件地以外ノ方面

- イ・「ポセツト」及哈桑湖地区大ナル変化ナキモ「ポセツト」港ニハ二十八日以来稍々活況ヲ呈ス
- ロ・東寧綏芬河「ウスリ」沿岸地方変化ナシ
- ハ・飛行機ノ飛翔一般ニ低調ナリ
- ニ・武市方面ニ於テハ「ムーヒンカ」ニ野営中ノ第十二狙撃師団ニ十九日以来武市ニ帰還中ニシテ今朝目撃シ得タル自動車ノ数約百四十輛ナリ要スルニ東部及北部方面未タ大ナル変化ナシ
- 二、事件地方面
- イ・滿州里方面平常ト変化ナシ
- ロ・昨一日我一部ハ戦車十輛砲一、二、中隊ヲ基幹トスル敵ヲ撃破

シ十七時「シヤグジンガンガ」(X三三二〇Y七五七八)附近ニ進出ス

我損害戦死一名、敵ノ戦車二輛ヲ破壊ス

- ハ・陣地ヲ占領シアル敵ハ我一部ノ機動ニ対シ既ニ追隨の兵力移動ヲ開始セルカ如シ
- ニ・我前線兵ノ志氣極メテ旺盛ナリ

要スルニ当初空陸両方面共ニ挑戰的態度ニ出タル敵ハ前日来ノ空中戦ニ於ケル惨敗及最近我方精銳部隊ノ現出ニ依リ著ク戦意ヲ減殺シ既ニ受動的態度ニ陥リタルモノト判断セラレ

- 三、昨日以来ノ報告中ニ在ル「フイ」高地ハ(X三七一八Y七五六四)ノ標高七二一高地ナリ
- 四、地上作戦ニ関シテハ尚暫ク発表ヲ差控フル積リナリ

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月三日一〇・四〇

第五課 長濱少佐受

- 一、小松原部隊ハ二日払曉迄ニ主力ヲ「フイ」高地附近ニ推進シ安岡部隊ヲ以テ「ホズイ」湖東南側ニ集結シ山縣部隊ヲ以テ「マンズテ」湖南方地区ヲ占領セシム
- 敵ハ「ヂヤクヂンガンガ」附近ニ於テ交戦ヲ交ヘタル後後退セリ
- 二、小松原部隊ハ敵ヲ抑留スル為ニ二日正午頃ヨリ山縣部隊ヲ以テ「イリン」高地ニ攻勢ヲ採ラシム
- 又安岡部隊ハ敵ノ「ハルハ」河左岸ニ機動セントスル兆候ヲ見十八

時戦車ノ主力ヲ以テ「ヂヤゴボレ」以南ノ地区ニ対シ敵ノ左翼ヲ包圍スル如ク攻撃前進ヲ開始ス

該方面ノ敵ハ十九時三十分頃渡河点ニ向ヒ退却ヲ開始セリ

三、二日正午頃迄ニ於ケル我損害ハ戦死七ニシテ此間敵戦車七ヲ破壊セリ

四、二日現在「サンベーズ」飛行場群ニアリシ敵飛行機ハ大型五小型二十六ナリ

五、事件地以外ノ正面変化ナシ

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月三日一五・五〇

第五課 甲谷少佐受

国通「ニュース」ニ依レバ岡本、酒井両部隊ハ三日二時半白銀查干「オボ」ヲ占領敗敵ヲ窮追シテ八時頃左岸ヲ距タル南方二里附近ヲ更ニ南方ニ向ヒ追撃前進中ナリト（註本件一般報導ヲ避クル積リナリシモ手違ヒニテ取消シ問ニ合ハサリシモノノ如ク今後共「ハルハ」河左岸地区ニ於ケル行動ハ発表ヲ禁止スル筈ナリト）

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月二日一〇・五〇

第五課 甲谷少佐受

一、事件地以外ノ方面

イ、「ポセツト」及哈桑湖地区大ナル変化ナキモ「ポセツト」港ニハ二十八日以来稍々活況ヲ呈ス

ロ、東寧綏芬河「ウスリ」沿岸地方変化ナシ

ハ、飛行機ノ飛翔一般ニ低調ナリ

ニ、武市方面ニ於テハ「ムーヒンカ」ニ野営中ノ第十二狙撃師団ニ十九日以来武市ニ帰還中ニシテ今朝目撃シ得タル自動車数約百四十輛ナリ

要スルニ東部及北部方面未タ大ナル変化ナシ

二、事件地方面

イ、満州里方面平常ト変化無シ

ロ、昨一日我一部ハ戦車十輛砲一、二中隊ヲ基幹トスル敵ヲ撃波シ十七時「シヤグジンガンガ」(X三七二〇Y七五七八)附近ニ進出ス

我損害戦死一名、敵ノ戦車二輛ヲ破壊ス

ハ、陣地ヲ占領シアル敵ハ我一部ノ機動ニ対シ既ニ追隨の兵力移動ヲ開始セルカ如シ

ニ、我前線將兵ノ志氣極メテ旺盛ナリ

要スルニ当初空陸両方面共ニ挑戦的態度ニ出タル敵ハ前日来ノ空中戦ニ於ケル惨敗及最近我方精銳部隊ノ現出ニ依リ著ク戦意ヲ減殺シ既ニ受動的態度ニ陥リタルモノト判断セラル

三、昨日以来ノ報告中ニ在ル「フイ」高地ハ(X三七一八Y七五六四)ノ標高七二一高地ナリ

四、地上作戦ニ関シテハ尚暫ク発表ヲ差控フル積リナリ

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月五日一一・一五

第五課 甲谷少佐受

一、昨日地上戦闘ノ状況

未夕確實ナル報告ニ接セサルモ唯今第一線ニ在ル野原大尉ヨリノ電話連絡ニヨレハ我地上部隊ハ主力ヲ以テ「イリン」高地方面ノ敵ヲ掃蕩撃滅中ナルカ如シ(地点、時刻等ノ詳細不明ナリ)

「イリン」高地ハ尚戦車二、三十輛アリ大部ハ捕捉シ得ル見込ニシテ既ニ相当多数ノ俘虜及鹵獲品アリ

(詳細未タ尚不明)

我地上部隊ハ昨夜既ニ完全ニ「ハルハ」河右岸ニ轉移セルモノノ如ク左岸ニハ残置部隊無キモノノ如シ

満軍ハ「ノロ」高地ノ敵ヲ攻撃シ四日八時合流点東北方四軒ノ地点ニ進出シアリ

二、空中戦闘ノ状況

四日正午頃敵空軍ハ戦場上空ニ跳梁セルカ我航空部隊ハ爆撃隊ヲ以テ「ハラ」西北地区砲兵及「コマツ」西方車輛部隊ヲ攻撃スルト共ニ戦闘隊ヲ以テ「イ」十五、十六及「エスベ」合計五十三機ヲ確實ニ撃墜、外ニ不確實ナルモノ「イ」十六「エスベ」合計十五機アリ現出セル敵ノ空中兵力「イ」十五型一大隊「イ」十六型三大隊「エスベ」型二―三大隊

我方前期無事帰還セルモ負傷者三名アリ

三、齋藤中佐及野原大尉ノ行動

両官共之ヲ以テ「ハルハ」河畔ノ作戦一段落ヲ見タルモノト認メ野

原大尉ハ明六日飛行機ニテ新京へ又齋藤中佐ハ野原大尉ト共二七日新京發、十日当部着ノ承認ヲ認メ来レリ

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月五日一七・一〇

第五課 甲谷少佐受

一、地上戦闘ノ状況

第一線ヨリノ情報少ク詳細不明ナルモ左岸攻撃部隊ハ三日「ハルハ」河左岸地区ニ於テ二百乃至三百ノ戦車及装甲自動車ト遭遇シ其少クモ百五十台ヲ破壊シタル後同日夜一部ヲ渡河点附近ニ残置シ主力ヲ「タギ」湖附近右岸地区ニ集結四日主力ヲ「バルシヤガル」高地方向ニ指向シ「ハルハ」河右岸地区ニ於テ逐次敵ヲ压迫シツ、アルモ状況詳カナラス敵ノ橋梁依然存在シアルカ如シ

本作戦ニ於テ敵ニ与ヘタル損害ハ甚大ナルモ我モ亦相当ノ損害アル見込渡河点附近残置部隊モ亦大体右岸地区ニ撤退セル模様ナルモ或ハ尚一部残留シアルヤモ知レス(本朝飛行偵察ノ結果ニ依ルモ詳細明カナラス)

二、其他参考事項

イ、軍司令部ニ於テモ情報少キ現状ニ鑑ミ明六日以後海拉爾ニ白木中佐ヲ長トスル情報所ヲ設置セラル、筈

ロ、三日戦闘ニ於テハ十五加ラシキモノ戦場ニ現出セリ敵戦車、装甲自動車ハ近接ニ当リ殆ト全部我力速射砲及砲兵ニ依リテ之ヲ破壊又ハ撃退セル為此等ヨリ受ケタル損害ハ大ナラサルカ如キ

モ我カ損害ノ大部ハ敵砲兵火力ニ依ルモノナルカ如シ

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月六日一〇・四〇

第五課 長濱少佐受

- 一、我カ左岸攻撃部隊ノ岡本須見等ノ諸部隊ハ逐次「ハルハ」河右岸地区ニ転進シ五日午前五時頃迄ニ渡河点北側地区ニ集結セリ
転進並ニ集結ハ正ニ堂々ト実施セラレ目下「ハルハ」左岸ニハ我部隊無ク敵ハ敢テ追躡ノ挙ニ出テス
- 二、安岡部隊ハ四日午後二時頃合流点附近ヲ距ル約四料ノ線ニ進出シアリ、尚夕刻頃ニハ合流点ヲ距ル一料ノ線ニ進出シアリトノ情報アリ
- 三、左岸攻撃部隊ノ右岸転進ハ敵機械化部隊徹底的撃破ノ目的ヲ達成シタル後行ハレタルモノニシテ敵ニ与ヘタル損害左ノ如シ
左岸ニ於ケル敵戦車ノ破壊数少クモ百五十台、全部ノ破壊戦車ハ二百台ヲ超ユヘシ
- 其他彼我ノ損害ニ就テハ目下調査中ナリ
- 四、五日午後一時三十分頃敵ノ「エス・ペ」六十機、「イ」十五及十六型合計五十機戦場上空ニ飛来シ来レルヲ以テ我カ戦闘隊ハ之ヲ迎撃シ「エス・ペ」五機、「イ」十六型七機ヲ確実ニ撃墜シ我方全機帰還セリ
- 我カ爆撃隊ハ五日主トシテ「バルシヤガル」台上ノ敵砲兵及戦車ヲ
- 三回ニ亘リ爆撃シ相当ノ損害ヲ与ヘタリ
- 五、二日以降敵飛行機ハ再ヒ増加セルカ諸情報ヲ総合判断スレハ左ノ如

シ

- 敵ハ先ニ徹底的打撃ヲ蒙リタル空軍部隊ヲ戦場ヨリ撤退シ新ニ「ドムノ」及「カダラ」駐屯「エス・ペ」三大隊及西伯利軍管区或ハ「クイブイシエフ」駐屯駆逐三大隊内外ヲ参戦セシメタルモノノ如シ
- 六、以上敵ノ処置其他各方面ノ状況ニ鑑ミルニ敵カ本事件ヲ局地的ニ終熄セシメント企図シアルハ窺ヒ知ルヘキモノアリ
- 七、其他ノ方面ニ於テハ猶太自治州「ラズデ」対岸満領太平洋溝ハ四日「ソ」領ヨリ潜入セリト思惟セラルル約五百ノ匪賊ニ依リテ襲撃セラレ同地ハ最近開發セラレタル金鉱地ナル為多少ノ被害アル見込

澤田部隊ハ之ニ対シ所要ノ処置ヲ講シアルモ地形ノ關係上拡大ノ虞ナシ
其他東部及北部変化無シ

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月六日一七・二〇

第五課 甲谷少佐受

- 一、事件地方面ノ戦況
現地方面ヨリノ情報殆ント無ク詳細不明ナルモ海拉爾軍情報所ヨリ承知シ得タル所ニ依レハ安岡部隊ハ昨五日夜敵渡河点ニ向ヒ攻撃中ニシテ既ニ台端近ク(地点ノ詳細不明)進出シアリト
- 昨夕以来岡本、須見両部隊モ亦攻撃ニ参加シアル筈ナルヲ以テ今日中ニハ右岸地区ノ敵ヲ掃蕩シ了ルナラント思惟ス
- 二、事件地以外ノ状況

太平溝金鉢地（太平溝部落西方山地内ニ在リト）ニ於ケル損害ハ死傷約五十トノ情報アリ

其他ノ方面変化無シ

●齋藤派遣参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月六日一八〇〇

第五課 甲谷少佐受

一、合流点附近敵渡河点ノ橋梁ノ存否如何ニ関スル質問ニ対シ橋本部長

ノ御話ニ依レハ二本共存在シ敵重車輛往復シアルカ如ク敵力更ニ左

岸地区ノ戦車ヲ増スルコト無キヤヲ監視シアリトノ回答アリ

二、「コマツ」台附近ニ敵砲兵ノ進出セルコト無キヤノ質問ニ対シテハ未

タ其ノ事実ナシトノ回答アリ

三、満軍ハ勇敢ニ行動シ畧々「ホルステン」河北岸部隊ト同線ニ進出シ

アルカ如シ

●関東軍参謀部トノ電話連絡

昭和十四年七月七日一二・三〇

第五課 甲谷少佐受

一、加藤参謀トノ通話要旨

イ、現地方面ヨリノ情報無キモ小松原部隊ハ昨六日朝以来渡河点附

近ニ残存スル敵ニ対シ攻撃ヲ開始セル筈

ロ、俘虜ノ言ニ依レハ同人ノ属スル装甲自動車旅団ハ従来「ジヤミ

ンウデ」（内蒙正面国境烏得）ニ駐屯セルモノニシテ六月二十九日同地出發七月二日頃戰場ニ到着シアリ

ハ、事件地附近ニ現出セル敵ノ戦車及装甲自動車ノ数ハ意外ニ多数

ニシテ合計四百輛以上ニ上ルモノノ如ク其約半数ヲ破壊又ハ擱

坐セシメタル次第ナリ

ニ、現地方面ニ兵力増加ノ情報ニ関シテハ東部及北部方面ノ航空兵

力ヲモ派遣セルニ非サルヤノ疑アル外何等ノ情報ニ接シアラス

ホ、服部中佐本日帰來セルニ付現地方面ノ状況判明次第電報又ハ電

話スヘシ

ヘ、齋藤中佐及野原大尉ハ本日ノ飛行機ニ依リ帰來ノ予定ニテ昨夜

奉天ニ向ヒ出發セルモ天候不良ノ為目下奉天ニ滞留シアル模様

ナリ

二、鶴飼中佐トノ通話要旨

イ、俘虜ノ言ニ依レハ装甲自動車旅団ノ装甲自動車數ハ従來ノ情報

（「フロント」少佐ノ言）ニ比シ遙カニ多ク重、軽併セテ百五十

輛ナルカ如シ（昨年中ニ増強セルモノナランカ）

ロ、從テ現地附近ニ於テ交戦セル装甲自動車旅団數ハ「ジヤミン・

ウデ」ノモノト「ウンドルハン」又ハ「サンベーズ」ノモノト

ノ二個ナルヘク其他装甲旅団一—二個（戦車ヲ主体トスルモノ）

ト判断セラル

ハ、別ニ一昨日入手セル密偵報ニ依レハ「サンペーズ」東北方ニ兵

種不明ノ三連隊アリト、確度甚タ低キモ或ハ狙撃第五十七師団

ナラスヤトモ思惟セラル、現認セル日時等ハ不明ナリ

ニ、「ジヤミン・ウデ」ヨリ現地方面ヘハ経路詳カナラサルモ良好ナ

ル自動車道アルカ如シ

(参考)

同盟通信ヨリ獲得セル情報ニ依レハ昨六日我飛行隊ハ「ボイル」湖上空ニ於テ「エス・ペ」型及「イ」十六型計五十数機ト遭遇シ其二十四機(「エス・ペ」型四 「イ」十六型二〇)ヲ撃墜セリ我方三機不時着セルモ之ヲ收容シ得タリ(一二、三〇「ラヂオ」放送済)

● 関東軍参謀部トノ電話連絡

昭和十四年七月七日一六 三五

第五課 甲谷少佐受

一、加藤参謀トノ通話要旨

- イ. 小松原兵団ハ昨夕迄ニ「バルシヤガル」高地上ノ敵陣地ノ大部ヲ攻略シテ最後ノ陣地線ヲ包圍攻撃中ナルモ「コマツ」台上ヨリスル十加又ハ十五加約一大隊ノ火力ニ依リ戦況ノ進捗遅延シアリ(昨夕刻頃ノ状況)
- ロ. 「ノロ」高地方面ハ敵ノ全陣地ヲ攻略シ既ニ同高地ノ西側ニ進出シアリ(同 右)
- ハ. 要スルニ敵砲兵ノ射程大ニシテ我砲兵ノ射程到達セサル為若干ノ困難ヲ生シアルモ目下対応策ヲ講シツツアルヲ以テ右岸地区ノ敵ノ完全掃蕩ハ最早時間ノ問題ナリ
- ニ. 戦場掃除ハ逐次進捗シツツアリ、左岸地区ニ進出セル部隊ハ屍体ハ完全ニ之ヲ收容シ且破壊セラレタル自動車等ハ之ヲ焼却セリト

二、鶴飼中佐トノ通話要旨

- ホ. 俘虜ノ数ハ未タ詳カナラサルモ五日頃安岡部隊二十五名トノ報告アリシコトアリ、不確実ナルモ海拉爾ニ六十名收容シ逐次哈市ニ転送中ナリト
- 右ノ内ニ「ジャヤミン・ウデ」装甲自動車旅団ノ少佐一名アリ
- ヘ. 有末中佐ハ本七日ノ飛行機ニテ出発ノ予定ナリシモ予定ヲ変更其空席ヲ齋藤中佐等ノ使用ニ供シタルモノナルモ是亦天候ノ為飛行不能トナレルモノナリ
- 有末中佐ハ恐ラク今尚現地方面ニ在ルナラン
- イ. 「ジャヤミン・ウデ」装甲旅団ハ装甲自動車約百輛、車載歩兵一大隊ヲ基幹トシ七月三日「ハルハ」左岸地区ノ戦闘ニ参加セリ
- ロ. 在「サンペーズ」装甲自動車旅団モ亦七月四日頃戦場ニ到着戦闘ニ参加セルモノノ如ク同旅団ハ装甲自動車約五十輛、車載歩兵一大隊及水陸両用戦車部隊ヲ有ストノ報告アリ(註、俘虜ノ陳述ナラン)
- ハ. 以上ニ依リ七月三、四日ノ両日装甲自動車二旅団戦場ニ到着セル次第二ニシテ従来存在セシ「ウンドルハン」装甲旅団(戦車ヲ主体トス)、同装甲自動車旅団及知多装甲旅団(註、知多ハ多少疑問ナリ)ト合スレハ五旅団トナル次第ナリ
- ニ. 昨六日敵ハ戦車七十五輛、車載歩兵八百ヲ以テ逆襲ヲ企図セルカ如シトノ断片的情報アルモ其事実疑ハシ
- ホ. 「ハルハ」河右岸地区ニ残存シアル敵ノ兵力ハ詳カナラサルモ歩兵部隊ヲ見シテ専ラ戦車及装甲自動車トノ戦闘ナリト称セラ

● 関東軍加藤参謀トノ電話連絡

昭和十四年七月八日〇九・五五

第五課 三町大尉受

(一) 昨七日夕ニ於ケル小松原部隊正面ノ敵兵力判断左ノ如シ

一、「イリン」高地ノ敵第一線ハ標高七三八高地ヲ中心トシ左右ニ

亘ルモノニシテ

歩兵 二―三中隊

戦車 四十一―五十輛

野砲 約 二十門

二、「ノロ」高地ノ敵第一線ハ標高七五八高地ヲ中心トシ南北ニ亘

ルモノニシテ

歩兵 二百乃至三百

戦車 十數輛

三、「ハルハ」河左岸ノ敵

「スンプルオボ」附近 十五加 八門

「ハラ」台附近 野砲 十六門

「コマツ」台附近 車輛 約二百輛

四、敵空軍兵力(航空部隊ノ感想ニ基クモノ)

「イ」十六型 約四十

「イ」十五型 約二十

「エス・ペ」型 約三十

「テ・ペ」三型 約三十

以上 計 約百二十機

(二) 其他ノ正面目下ノ処変化無シ

● 関東軍加藤参謀トノ電話連絡

昭和十四年七月八日一五・三五

第五課 三町大尉受

一、本払曉小松原部隊ハ夜襲ニヨリ「バルシヤガル」地区ノ標高七三八

高地及其東方陣地ヲ占領セリ

二、敵ハ本朝来退却ヲ開始シ我ハ主力ヲ以テ七三八高地西端ニ進出一部

ヲ以テ敗敵ヲ追躡シツツアリ

三、「ノロ」高地ノ敵モ退却ヲ開始シ我部隊ハ同高地北端ニ進出シアルカ

如シ

四、本八日八時我挺進工兵ハ「ハルハ」河ノ橋梁(下流ヨリ二番目)ヲ

爆破セリ

五、「ハルハ」河左岸ノ敵砲兵ハ本朝緩徐ナル射撃ヲ実施セルモ爾後ノ活

動活澆ナラス

六、敵航空部隊ハ本朝編隊ヲ以テ来襲セルモ爾後ノ行動活澆ナラス

敵空軍主力ハ「タムスク」ヲ根拠トナシアルモノノ如ク「サンペー

ズ」ニハ大型機ナク小型機若干アリ

七、「ボルヂヤ」附近ニハ敵機ヲ認メス

八、「ボルヂヤ」―「サンペーズ」道ノ交通ハ活澆ナラス

● 関東軍参謀部トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月九日一一・四〇

第五課 甲谷少佐受

一、加藤参謀トノ通話要旨

イ、小松原部隊ハ八日夕ヨリ主力ヲ以テ殘敵ヲ合流点ニ圧迫撃滅ヲ

期シツツアリ

合流点右岸ニハ尚百輛以上ノ車輛アルモノノ如シ

右ハ飛行機偵察ノ結果ナルモ橋梁破壊セル為殘留シアルモノナ

リヤ否ヤ詳カナラス

ロ、八日十六時以後左岸台上ノ敵砲兵ハ著シク減少セリ

ハ、八日十三時四十分「ボイル」湖東方地区ニ於テ敵機十八ヲ撃墜

我方二機帰還セス十八時「エス・ベ」型十九機我力戦線後方ヲ

爆撃セルモ被害無キ見込

ニ、敵戦車装甲自動車ノ破壊数

左岸地区 約百五十輛

右岸地区 約百輛

合計 約二百五十輛

ホ、七日迄ノ我力死傷ハ詳細判明セサルモ諸情報ヲ総合スルニ戦死

約四百、戦傷約八百、合計千二百名内外ナルカ如シ

但本数字ハ精確ヲ期シ難シ

ヘ、其他滿蒙国境方面ノ敵情

1 「ハルハ」廟ニハ砲ヲ有スル歩兵約百名

2 「ボルンデルス」(「ボイル」湖西岸)ニハ砲ヲ有スル歩兵約

百五十名

3 「アラカボルガ」(「ボイル」湖西方約八十軒)ニハ砲ヲ有ス

ル歩兵約二百此等ノ敵ハ六月二十六日以来該地附近ヲ警備

シアルモ積極的行動無シ

ト、其他ノ各方面目下ノ処変化無シ

二、磯村参謀トノ通話要旨

「ソ」領全般ニ亘リ未タ積極的企図ノ兆候ヲ認めサルモ動員、集中

其他開戦準備ト認めキモノ無キヤ目下慎重調査中ナリ

●関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月九日一六、一五

第五課 甲谷少佐受

一、小松原部隊ハ昨日薄暮敵ヲ攻撃シ十二榴五門ヲ鹵獲セリ

二、本朝「ハルハ」河右岸地区ニハ尚若干ノ敵兵残存ス

其ノ兵力車輛三十輛内外(戦車自動車貨車等ヲ合シ)

三、右車輛數ハ飛行機偵察ノ結果ニ依ルモノニシテ百輛内外トノ報アル

モ三十輛内外ノ方事実ナルガ如シ

四、「ハルハ」河左岸台上ノ砲兵ハ依然活躍中

五、渡河点ノ橋梁ハ昨夜半更ニ一本ヲ爆破セルガ如シ

六、以上ニ依リ右岸殘留ノ敵ハ橋梁ノ爆破ニ依リ逃ゲ遅レタカ或ハ本夜

ヲ待テ左岸ニ撤退ヲ企図シアルモノカ何レニセヨ敗殘ノ一部ガ橋梁

ニ近ク残存シアルモノニシテ大ナル抵抗力無キモノノ如シ

七、小松原部隊ノ主力ハ停止シ一部ヲシテ窮追セシメツ、アルモノナル

ガ如シ

(註) 午前連絡ノ際俘虜ノ數ヲ質シタル処七日迄ニ海拉爾ニ收容セルモ

ノ二十二名内十四名ハ逃走ノ目的ヲ以テ投降セルモノナリトノ

回答アリ尚第一線方面ニハ若干ノ俘虜アル見込

● 関東軍参謀部トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月十一日一二・一〇

第五課 甲谷少佐受

一、加藤参謀トノ通話要旨

イ、「バルシヤガル」地区ノ戦況大ナル変化無キカ如ク橋梁附近ノ敵ハ減少セリヤ否ヤ不明ナリ

小松原部隊主力ハ未タ「ハルハ」河ノ線ニ進出シアラス

ロ、「ノロ」台方面ニ於テハ岡本部隊ハ敵ヲ駆逐シテ合流点附近ニ進出セリトノ報アリ

ハ、「ハルハ」右岸ニ進出シアリシ敵騎ハ之ヲ撃退セルモノノ如ク現在既ニ右岸ニハ敵騎無キ模様ナリ

ニ、目下ノ処敵カ我右側方面ニ渡河攻撃シ来ル虞無シ

二、大越参謀トノ通話要旨

イ、俘虜ノ收容数ハ二十名余ナリシカ更ニ赤軍大隊長一名、兵十名ヲ率キテ投降シ来レリ(日時不明)

ロ、右大隊長ハ在「ボルジヤ」第五自動車化狙撃機関銃旅団第三大隊長ニシテ極端ニ疲労シアリ

ハ、右大隊長ニ就キ調査シタル結果左ノ如シ(疲労ノ極ニ在ルモノノ応答ナルヲ以テ多少ノ誤リ無キヲ保セス)

1 「ベルム」ニ於テハ五月三十日民兵交代兵ヲ召集第六百一号部隊ヲ編成シ六月十八日出発連隊長引率ノ下ニ東送セラレ

同月三十日「ボルジヤ」ニ到着

2 知多ニ於テモ亦五月三十日民兵交代兵及予備兵ヲ召集第七百一号部隊ヲ編成六月末「ボルジヤ」着

3 此等部隊ハ「ボルジヤ」ニ於テ一括ノ後在「ボルジヤ」各部隊ニ配当セラレタリ

4 本人ノ属スル部隊ハ七月二日「ボルジヤ」出發、現地ニ向ヒ急進セルモノナリ(全旅団ナリヤ否ヤ未詳)

5 第五旅団ハ某軍団ニ属シ同旅団ノ外戦車旅団二個ヲ有ス、其番号ハ第六ノミ承知シアルモ他ハ不明

6 在「ボルジヤ」爾他部隊モ第五旅団同様補充ヲ受ケタリ

ニ、右ノ外調査ノ結果ニ依レハ「ウクライナ」共和国「ジトミール」方面ヨリモ同様ノ補充兵輸送セラレアルヤノ疑アリ、一般ニ事件出動部隊ノミナラス後貝加爾軍管区ハ勿論第一、第二軍方面

ニ於テモ同様補充(充員)ヲ行ヒアルモノト判断ス

ホ、我方損害ハ目下ノ処尚詳カナラサルモ病院ニ收容セルモノ約千五百ト聞ケリ

● 関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月十一日一四・三〇

第五課 甲谷少佐受

一、本十一日午前九時三十分小松原兵団ノ報告要旨

イ、「ハルハ」河右岸地区ニハ尚少クモ歩兵二、三中隊、戦車、装甲自動車約四十輛残存ス

ロ、橋梁ハ川又附近及其上流中島附近(川又橋梁上流約四軒)ニ各々

一アリ
ハ、「ハルハ」河左岸ノ長射程砲ハ本朝来猛射シアリ

- 二、小松原部隊ハ一部ヲ以テ「ハルハ」河岸ニ進出セルモノアルモ主力ハ後方台端ニ在リ
- ホ・「ホルステン」河左岸岡本部隊ハ一部ヲ以テ六九一高地ヲ占領セシメ主力ハ其東方地区ニ在リ
- 二、現地迄ノ俘虜総數四十一名
- 三、其他ノ方面目下ノ処変化無シ

● 関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月十二日一・三〇

第五課 野原大尉受

- 一、十日夜小松原部隊ハ右岸ノ残敵ニ対シ夜襲ヲ行ヒタルモ敵ハ依然之ヲ拒止シアリ敵残存兵力ハ歩兵二、三中隊、戦車装甲自動車合計約三―四〇輛ナルカ如シ
- 二、諸情報ヲ総合スルニ当面ノ敵主力ハ依然「ハルハ」河左岸地区ニ在リテ遠ク後方ニ撤退シアラサルカ如シ
- 三、合流点附近右岸三角地帯ニハ十日夜暗ヲ利用シ若干兵力増強セサレタルカ如ク又砲兵ヲ以テ之ヲ支援シ極力同地帯ヲ保持スル企図ノ如シ
- 四、川又附近及其上流中島附近ニハ各橋梁一アリ
- 五、「コマツ」「ハラ」及其中間後方ニハ長距離砲各四門アリ
- 十日夜来十一日朝ニ亘リ該長射程砲ハ間断ナク射撃ヲ続行セリ
- 六、関東軍三好参謀ノ十一日視察セル結果ニ依レハ合流点附近右岸地区ニハ敵戦車、装甲自動車約一〇〇輛アリ内約六〇輛ハ川又橋梁ニ近

ク又約四〇輛ハ我軍ノ右翼ニ在リ

七、十一日「フイ」高地北側高地ニ敵戦車約四〇輛在リ後方ニ橋梁アルカ如キモ明カナラス

八、三好参謀ノ談ニ依レハ敵航空兵力ノ主力ハ目下「タムスク」ニ在リテ同地ノ兵力ハ「イー」十五型二大、「イー」十六型四大、大型一大、中型一大、合計一三〇―一三〇機ナリ「マタード」「サンベーズ」ニハ各一二―一三機アルノミ

九、最近二―三日来敵ハ甘珠兒廟及將軍廟ニ対シ概ネ三機ヲ以テ夜間爆撃ヲ行ヘリ

一〇、小松原部隊ハ依然七三三高地ノ線ニ在リ又「フイ」高地方面ニ於テハ我搜索部隊満軍ト協力敵ニ対シアリ

● 加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月十二日一七・〇〇

第五課長濱少佐受

本朝電話連絡以後特別ノ情報ニ接セス
状況ノ変化ナキモノト認ム

● 関東軍参謀部トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月十二日一八・三〇

第五課 三町大尉受

一、加藤参謀トノ電話

1 昨十一日夜小林部隊ノ主力ヲ以テ合流点附近ノ敵ヲ攻撃シタルモ敵歩兵約二大隊戦車約七—八十輛頑強ニ抵抗シ之ヲ撃退シ得ス
原位置ニ後退ス

2 本朝来左岸ノ敵砲兵ハ尚活動シアリ

3 三角地带ノ敵ハ昨夜更ニ兵力ヲ増加タルモノノ如シ

4 本十二日十四時二十分頃「ハルハ」河畔上空ニ於テ我戦闘隊二十

機ト敵ノ「イ」十五型二十機「イ」十六型五十機ト交戦「イ」十

六型十一機ヲ撃墜セリ(電話不明瞭ナリ)

二、鵜飼中佐トノ電話

1 最近「フエクレンコ」中將ト交代セル「ジューコフ・ゲカ」中將

ハ外蒙赤軍特別第五十七軍団長ニシテ東蒙事件地ノ全般指揮官
ナリト判断ス

2 在「マタード」ノ外蒙騎兵師団ハ第八ニシテ第二騎兵軍団ニ又在

「バイシント」ノ騎兵師団ハ第七ニシテ第三騎兵軍団ニ属スルモ

ノト判断ス

●関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月八日一五・三五

第五課 三町大尉受

一、本払曉小松原部隊ハ夜襲ニヨリ「バルシヤガル」地区ノ標高七三八
高地及其東方陣地ヲ占領セリ

二、敵ハ本朝退却ヲ開始シ我ハ主力ヲ以テ七三八高地西端ニ進出一部ヲ
以テ敗敵ヲ追躡シツツアリ

三、「ノロ」高地ノ敵モ退却ヲ開始シ我部隊ハ同高地北端ニ進出シアルカ
如シ

四、本八日八時我挺身工兵ハ「ハルハ」河ノ橋梁(下流ヨリ二番目)ヲ
爆破セリ

五、「ハルハ」河左岸ノ敵砲兵ハ本朝緩徐ナル射撃ヲ実施セルモ爾後ノ活
動活澁ナラス

六、我航空部隊ハ本朝編隊ヲ以テ来襲セルモ爾後ノ行動活澁ナラス
敵空軍主力ハ「タムスク」ヲ根拠トナシアルモノノ如ク「サンベ

ズ」ニハ大型機ナク小型機若干アリ

七、「ボルヂヤ」附近ニハ敵機ヲ認メス

八、「ボルヂヤ」—「サンベーズ」道ノ交通ハ活澁ナラス

●関東軍参謀部トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月九日一一・四〇

第五課 甲谷少佐受

一、加藤参謀トノ通話要旨

イ、小松原部隊ハ八日夕ヨリ主力ヲ以テ残敵ヲ合流点ニ压迫撃滅ヲ
期シツツアリ

合流点右岸ニハ尚百輛以上ノ車輛アルモノノ如シ

右ハ飛行機偵察ノ結果ナルモ橋梁破壊セル為殘留シアルモノナ
リヤ否ヤ詳カナラス

ロ、八日十六時以後左岸台上ノ敵砲兵ハ著シク減少セリ

ハ、八日十三時四十分「ボイル」湖東方地区ニ於テ敵機十八ヲ撃墜

我方二機帰還セス十八時「エスベ」型十九機我カ戦線後方ヲ爆

撃セルモ被害無キ見込

二、敵戦車装甲自動車ノ破壊数

左岸地区 約百五十輛

右岸地区 約百輛

合計 約二百五十輛

ホ、七日迄ノ我カ死傷ハ詳細判明セサルモ諸情報ヲ総合スルニ戦死

約四百、戦傷約八百、合計千二百名内外ナルカ如シ

但本数字ハ精確ヲ期シ難シ

ヘ、其他滿蒙国境方面ノ敵情

1 「ハルハ」廟ニハ砲ヲ有スル歩兵約百名

2 「ポルンデルス」(「ボイル」湖西岸)ニハ砲ヲ有スル歩兵約

百五十名

3 「アラカボルガ」(「ボイル」湖西方約八十軒)ニハ砲ヲ有ス

ル歩兵約二百此等ノ敵ハ六月二十六日以来該地附近ヲ警備

シアルモ積極的行動無シ

ト、其他ノ各方面目下ノ処変化無シ

二、磯村参謀トノ通話要旨

「ソ」領全般ニ亘リ未タ積極的企図ノ兆候ヲ認メサルモ動員、集中

其他開戦準備ト認ムヘキモノ無キヤ目下慎重調査中ナリ

●関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月十日一七、四〇

第五課 甲谷少佐受

一、小松原部隊ノ戦況ハ午前連絡ノ際報告セル如ク昨日夜ノ夜襲ニ依

リ一度「ハルハ」河岸ニ到達セルモ払暁ト共ニ原位置ニ引揚ケタル

モノニシテ橋梁ニ近ク尚敵兵残存シアリ其兵力其他前絡ノ通り

二、本十日午後一時四十分頃「ハルハ」河畔ニ於テ大空中戦ヲ惹起シ敵

機五十九機ヲ確實ニ撃墜セリ

別ニ稍々確實ナルモノ六機アリ

我方我戦線内ニ不時着セルモノ一機、外全機無事帰還セリ

●関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月十日一一、二〇

第五課 甲谷少佐受

一、「イリン」台正面ノ敵ハ橋梁東方二軒ノ線ニ輕易ナル陣地ヲ構築残存

シアリ、橋梁附近ニハ戦車其他ノ車輛四、五十アルカ如シ

(昨九日夕ノ状況)

二、「ノロ」高地方面ニ於テハ七四二高地ニ砲若干ヲ有スル敵尚残存シア

リ(昨九日夕ノ状況)

三、「コマツ」台附近ニハ十五加(？)二中隊、高射砲十六門アリテ活動

ヲ継続シアリ、其西南方地区ニハ車輛約二百ヲ現認ス(昨九日夕ノ

状況)

四、「ハラ」附近ニハ野砲約二中隊、其西方二十五加(？)一中隊アルモ

ノノ如ク又「ハラ」北方約六軒ニハ戦車約四十輛ヲ有スル敵部隊ア

リ(註、此敵ハ更ニ照会ノ結果「ハルハ」河左岸地区ニ在ルコト判

明セリ)

宿直將校

五、敵ノ騎兵約三百(外蒙騎兵ナラント)ハ「ハルハ」河右岸「フイ」

高地附近ニ進出シアリ

六、目下残存セル敵渡河点ハ合流点附近及其北方「ナミ」台(六七三標

高点附近)附近ノ橋梁各一ナリ

七、我第一線ハ六七三標高点東南方高地附近ヨリ七三八高地ヲ経テ其東

南方ニ亘ル線ニ在リテ一部ハ「フイ」附近ニ進出セル敵騎兵ト相對

ス

八、小松原部隊ハ昨九日夕敵ノ左側ニ向ヒ夜襲シ概ネ「ハルハ」河岸ノ

線ニ進出セルモ払曉ト共ニ「ハルハ」河左岸高地台上ノ敵砲兵ノ猛

射ヲ避クル為一時現位置ニ後退セリ

九、其他ノ正面変化無シ

十、敵飛行隊ハ依然活動ヲ繼續シアルモ其出動機數ハ減少シ来レリ

十一、之ヲ要スルニ小松原部隊ハ敵ヲ土壇場ニ追ヒ詰メアルモ左岸台上

ノ敵砲兵ヨリノ損害ヲ顧慮シ夜襲ヲ以テ敵ヲ撃破シテハ原位置

ニ復帰スル行動ヲ反覆シアル現状ナリ、其ノ内敵砲兵制圧ノ手段

講セラルルニ至ラハ問題ナカルヘシ

十二、一昨夕小松原部隊カ十二榴五門ヲ鹵獲セリト報告セルハ十五榴三

門、山砲二門ノ誤リナリ、十五榴ハ使用シ得ル見込

午前及午後ノ連絡共ニ打電後ノ新情報ニ接セス

●加藤參謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月十四日一一〇〇

第五課 野原大尉受

一、戦況其後変化無シ

「フイ」高地方面ノ敵兵力ニ関シテハ情報区々ナルモ戦車部隊アル

コト確實ナリ但其行動積極的ナラス

二、我軍ノ企図ニ関シテハ電報ス

三、敵ハ細菌爆彈ヲ使用セルコト確實ナリト報告セルモ目下「ハルビン」

ニ於テ調査中ニシテ確定的判決ヲ下シ得ス

然レトモ爆彈ノ弾肉薄ク且内部ニ粉末様ノモノ填充シアリテ一方我

方ニ下痢患者多発セル等ニ鑑ミ細菌爆彈ニアラスヤト推定シタル次

第ナリ

●加藤參謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月十四日一七〇〇

第五課 野原大尉受

一、三角地帯ノ敵ハ本十四日朝来退却ヲ開始ス我右翼隊ハ敵ヲ追撃シ橋

梁ノ前方二百米ノ線ニ進出セルモ橋梁附近ニハ尚約一中隊ノ敵残存

シアリ

●関東軍參謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月十三日

第五課 三町大尉

- 二、「ハルハ」河左岸ニハ依然敵ノ砲兵在ルモ其射撃ハ猛烈ナラス
- 三、「フイ」高地方面ニハ敵ノ騎兵約二―三百、戦車三―四輛在リテ其対岸ニハ敵ノ騎兵約二―三百、戦車三―四輛在リテ其対岸ニハ敵ノ騎兵約四―五百在リ

該地附近ニ徒渉場在ルカ如シ

- 四、「ハルハ」河左岸ノ戦車、装甲自動車ハ其ノ数ヲ減シタルカ如キモ詳細明カナラス

- 五、以上ハ師団ヨリノ正式報告ニハアラサルモ戦線ヨリ海拉爾ニ帰還セラル某ノ言ナリト

●関東軍鶴飼中佐トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月十七日〇九・四〇

第五課 野原大尉受

- 一、昨十六日一八、四五「エス・ペ」八機編隊ヲ以テ「アルシヤン」上空ニ来リ爆弾百箇ヲ投下セリ、之カ為「アルシヤン」ハ黒煙ニ包マレタリ、我損害ハ日本軍兵一、憲兵一、馬一輕傷ニシテ、満人ノ損害ハ不明ナリ、同市ハ電線切断シ窓硝子ハ全部破壊セリ、又野戦郵便局ハ焼夷弾ノ為火災ヲ起セリ

- 二、東正面ニ於テハ昨十六日二二、三〇穆稜附近ニ機種不明ノ飛行機一機来リ滴道（平陽鎮西方穆稜河鉄道橋）方面ニ飛去レリ

- 三、興凱湖西岸地区及綏芬河、東寧正面一帶ニ亘リ十六日二一、〇〇―二四、〇〇ノ間照明弾、信号弾多数打揚ケラレ両国ノ火花ノ如クナリキ

- 四、富拉爾爆撃ノ結果ニ関シテハ報告区々ナルタメ目下人ヲ派遣シ調査中ナリ、宣伝文ハ撒布セラレアラサルカ如シ

●関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月二十日一六・一〇

第五課 甲谷少佐受

- 一、状況変化ナシ
- 二、十九日二十日越境セル敵機ナシ

●関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月二十一日一五・二〇

第五課 三町大尉受

- 一、本二十一日十一時―十二時ノ間我戦闘隊ハ「ボイル」湖上空ニ於テ敵飛行部隊ト遭遇空中戦ノ結果其三十九機ヲ撃墜セリ別ニ稍々確實ヲ欠クモノ七機アリ
- 二、地上部隊ノ情况十時迄ハ変化ナシ

●関東軍磯村参謀其他トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月十九日一一・三〇

第五課 野原大尉受

一、昨十八日夕四平街爆撃ハ全然事実無根ナリ恐ラク遼原附近ヲ敵機一機南下セリトノ情報ニ依リ昨夜奉天ニテ警戒管制ヲ実施セル事実カ右風説ノ原因ナルヘシ

二、東正面ノ敵ハ既ニ兵力移動ヲ終リ戦時配置ニ在リテ待機間ノ戦闘訓練ヲ実施中ノモノト判断シアリ東寧正面ニハ砲兵一連隊増強セラレアルカ如シ

十六日夜来依然信号弾、照明弾盛シニ打揚ケラレアリ灯火管制ハ依然実施中ナルモ十七日以来若干嚴重トナリシ如シ

三、北正面ノ敵モ亦恐ラク戦時配置ニ就キテ訓練中ナルカ如シ（野原大尉ハ受話ノ際本件判断ノ基礎甚タシク薄弱ナルカ如ク感セリ参考ノ為）

武市東側ニ於テ工兵隊ハ「ゼーヤ」河ニ架橋中ナリ

四、「ノウオシビリスク」「イルクーツク」方面ニ於テ労働者、工夫等多数召集中ナルカ如シ

五、川又附近右岸ノ敵ハ依然歩兵二大隊、戦車、装甲自動車約七―八十輛ナルカ如ク又十七日夜若干其兵力増強セラレタルカ如キモ積極的行動ヲ見ス

我軍ハ依然七三三高地ノ線ニ在リ

六、「ホルステン」河南岸地区ノ敵ハ歩兵五―六百、戦車二十輛内外ナルカ如シ

七、富拉爾基爆撃ノ使用爆弾ハ二百珽二箇、五十珽六箇、計八発ナリ

●関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月二十日一六・一〇
第五課 甲谷少佐受

一、情況変化ナシ

二、十九日二十日越境セル敵機ナシ

●関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月二十一日一五・二〇

第五課 三町大尉受

一、本二十一日十一時―十二時ノ間我戦闘隊ハ「ボイル」湖上空ニ於テ敵飛行部隊ト遭遇空中戦ノ結果其三十九機ヲ撃墜セリ別ニ稍々確實ヲ欠クモノ七機アリ

我方一機帰還セス尚二機我戦線内ニ不時着收容セラレタリ

二、地上部隊ノ情況十時迄ハ変化ナシ

●関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月二十二日一七・三〇

第五課 甲谷少佐受

一、第一線方面未タ変化無ク昨二十一日午前ノ空中戦以外敵敵機ノ活動ニ関スル報告ナシ

二、事件地方面ニ於ケル敵ハ逐次兵力ヲ増加シアルモノノ如ク確實ナル資料無キモ飛行機及戦車ノ補充ヲ急キアルコト畧確實ナリ

三、大越参謀ノ報告ニ依レハ例ノ件（動員説ノ意）ハ大体従来吾々判断

シアリシ所ニ一致シアルカ如シ（但シ完全ナルモノニハ非サルヘシト附加セラル）

四、東部北部方面ニハ何等目立ちタル変化無キモ唯密山正面ニ於ケル戦車ハ約二百五十輛ニ増加シアリ
各地ハ大体ニ於テ灯火管制ヲ実施シアリ

● 関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月二十三日 一一・二〇

第五課 甲谷少佐受

一、本日予定ノ如ク攻撃ヲ再興セルモ其結果ニ関シテハ未タ不明ナリ
二、昨二十二日敵飛行機ハ七時頃約四十機「ボイル」湖北方地区ニ飛来セルモ其後十九時頃迄ハ僅カニ単機ヲ以テ時々潜入ヲ企図セル程度ナリ

二十時爆撃機十五、小型機九十内外各方面同時ニ各方面ニ分散侵入シ来タルモ我戦闘隊ノ上昇ニ先立ち外蒙内ニ飛去セリ爆撃ハ行ハレサリシカ如シ

三、満州里国際列車ノ出発ヲ抑止セル問題ハ一時出発時刻ヲ遅ラセタル程度ニシテ同日十四時出発予定ヲ二十時ニ繰下ケ出発セシメタリ
十九日以後列車時刻ヲ変更シ満州里発ヲ二十時ト規定シ「イルクーツク」迄ノ各駅停車時間ヲ短縮シテ「イルクーツク」ニ於テ従来ノ「ダイヤグラム」ニ一致セシムルコトトセル由ナリ（防諜ノ為ナラシ）

● 関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月二十三日 一六・〇〇

第五課 甲谷少佐受

一、本二十三日七時三十分予定ノ如ク砲撃ヲ開始シ十一時第一線部隊ハ攻撃前進ヲ発起セリトノ報告アリシモ其後ノ状況不明ナリ
二、敵飛行機ハ瓦斯爆弾ヲ投下セル為第一線ニ於テハ瓦斯警報発セラレアリトノ情報アリ

三、我飛行部隊ハ予定通り爆撃実施中ナルカ如キヲ以テ敵機ノ行動活潑ニシテ我カ行動妨害セラレアリトハ思惟シ得ス

● 関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月二十四日 一五・四五

第五課 野原大尉受

一、本二十四日午前中ニ於テ師団ノ上空ニ現出セル敵機ハ延機数駆逐九七機、「エス・ペー」四〇機ニシテ空中戦闘ノ結果撃墜セルモノ駆逐二四機、「エス・ペー」三機ナリ、我損害ハ自爆セルモノ軽爆一機、他ニ負傷者数名ノ見込

二、其他地上部隊ニ関シテハ情報無し

● 関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月二十四日 一八・三〇

第五課 野原大尉受

- 一、地上部隊ノ戦況ハ其後大ナル進展ヲ見サルモノノ如シ
- 二、敵ノ兵力ハ火砲九十数門ニシテ内十五加農五―六門十五榴四―五門十加十五―十六門其他ハ野砲級ナリ
- 三、砲兵隊ハ昨二十三日ノ砲撃ニ依リ目標数三十二ノ内二目標ヲ破壊五目標ヲ制圧ス又橋梁ハ五箇ノ内二個ヲ破壊セリ昨日ノ発射弾数ハ三基数ナリ

● 関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月二十五日一〇・二〇

第五課 野原大尉受

- 一、地上部隊ノ情况ニ関シテハ現地ヨリ何等ノ報告ニ接セサルモ二十三日夜砲兵陣地ヲ推進シ歩兵ハ二十三日及二十四日ノ両夜トモ夜襲ヲ決行シタル筈ナリ
- 大体戦況ハ膠着シアルカ如キ感想ヲ有ス
- 二、当面ノ敵歩兵ハ四箇連隊ト判断シアリ砲兵ハ狙撃部隊増加ニ伴フ若干ノ増加ヲ見ル他重砲数ニハ変化無キカ如シ

● 関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月二十六日一〇・〇〇

第五課 野原大尉受

- 一、第一線ノ情况依然大ナル進展ヲ見ス目下其一線ハ「ハルハ」河ヨリ
- 四―五軒ノ線ニ在ルカ如シ

- 二、敵砲兵ニ対シテハ当初ヨリ最大射程ニ近キ射程ヲ以テ射撃シアリシモ敵砲兵更ニ後退シタル為目下制圧意ノ如クナラサルニ至レリ

● 関東軍参謀部トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月二十六日一六・四〇

第五課 甲谷少佐受

- 一、大越参謀トノ通話要旨
- 第一線ノ戦況ニ関シ詳細判明セス目下努力中ナリ（註、手段ヲ尽スヘキヲ要求シ置ケリ）
- 二、鶉飼中佐トノ通話要旨
- イ、東部国境方面ノ状況
- 1 二三日来「イマン」附近「スターリン」街道ニ於ケル「トラツク」ノ運行稍々頻繁トナリ二十五日歩兵約一千、砲約一大隊其他車輛馬匹等ノ縦隊「ソコリハ」山方向ヨリ「イマン」ニ進入セリ
- 「ソコリハ」山ニハ別ニ北方ヨリ歩兵約一連隊、戦車約一大隊、砲兵約一大隊（十五榴ヲ含ム）増加セラレタル模様ナリ
- 2 七月十七日以降「グロデコウ」支線ニ於ケル貨物列車ノ運行稍々活潑トナリ「グロデコウ」駅退避線ニハ五十数車輛集結シアリ
- 又「セルゲエフスキー」ヨリ「グロデコウ」ニ向ヒ「トラツク」ノ運行稍々活潑ニシテ其運行ハ觀月台正面及「バラノオレンブルグスキー」ヨリ「ソフイヤーアレクセエフスキー」ニ

及ヒアリ、特ニ「ソフイヤ」方面ニハ夜間運行ヲ実施シアリ
右「トラツク」ノ運行ハ六月末行ハレタル活潑ナル運行以來
二回目ニシテ前回ヨリモ稍々熾盛ナルヤノ感アリ

3 興凱湖西岸地区ノ戦車団ハ其後視察シ得サルモ戦車ノ音響其
他ヨリ推察シ尚存在シアルモノト思惟シアリ

ロ、北部国境方面ノ状況

1 烏雲対岸「インノケンチエフスカヤ」附近ニ於テハ二十二日
以來毎日「トラツク」ノ約二十輛連続運行シアリ、軍需品ノ
輸送ナリト言フモ若干ノ部隊モ亦存在シアリ、「ザウイタヤ」
師団ノ一部ナルヘシ

2 武市ニ於テハ防空演習ノ成績不良ナル為ト称シ今尚之ヲ继续
実施中ナリ

ハ、西部国境方面ノ状況

先般問題トナレル国際列車ハ同日二十時予定ヨリ遅レテ満州里
ヲ出発セルカ満州里、知多間ニ於テ一般所要時間ヨリモ十四時
間多クノ時間ヲ要セリ、軍事輸送輻輳ノ為ナルヘシ

ニ、唯今到着セル情報ニ依レハ「ノモンハン」附近ニ於テ第八十二
師団ナル師団番号現出セリト

地（地図ニ依リテハ七三三）西北方ヨリ同高地ヲ経テ其東南方地区
ニ亘リ陣地ヲ構築シアリ

「ホルステン」南岸地区ニ於テモ概ネ現在線ニ停止シアリ

砲兵ハ歩兵線ノ直後ニ推進シ其後緩徐ナル砲撃ヲ继续シアリ

二、昨二十六日敵飛行機ハ若干越境シ来レルモ空中戦生起セス、天候ノ
関係ナルヤモ知レス

三、其他ノ全正面特ニ変化アリト認ムヘキ点無シ
（註）今後電話連絡ヲ行ハサルコト、セリ

● 関東軍加藤参謀トノ電話連絡要旨

昭和十四年七月二十七日一一・一五

第五課 甲谷少佐受

一、第一線方面大ナル戦況ノ变化無ク第一線部隊ハ主力ヲ以テ七三八高